

VERITAS NetBackup BusinessServer™

Getting Started Guide

Windows NT/2000 (日本語版)

2001年1月
P/N 30-000083-011


VERITAS

免責事項

本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。VERITAS Software Corporation は、本書に関して、商品性や特定目的に対する適合性の黙示保証などの一切の保証を行いません。VERITAS Software Corporation は、本書に含まれるエラーや本書の提供、遂行、または使用に伴う付随的または間接的な損害に対して一切の責任を負わないものとします。

著作権

Copyright © 1999-2000 VERITAS Software Corporation. All rights reserved. VERITAS は、米国およびその他の国における VERITAS Software Corporation の登録商標です。VERITAS のロゴ、VERITASNetBackup、および VERITASNetBackup BusinessServer は、VERITAS Software Corporation の商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本ソフトウェアの一部は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm から派生したものです。Copyright 1991-92, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

Printed in the USA, January 2001.

VERITAS Software Corporation
1600 Plymouth St.
Mountain View, CA 94043
電話 650-335-8000
ファックス 650-335-8050
www.veritas.com

目次

まえがき	vii
本書の構成	vii
製品の更新に関する電子メール通知	viii
表記規則	viii
一般の表記規則	viii
「注」と「注意」の違い	viii
キーの組み合わせ	ix
コマンドの書式	ix
テクニカル サポート	x
第1章 はじめに	1
NetBackup BusinessServer とは	2
バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて	2
バックアップ ポリシー	2
カタログ バックアップ	3
機能の紹介	3
サーバー	3
クライアント	4
Media Manager	5
ストレージ ユニット	5
複数のデータ ストリーム	6
マルチプレキシング	6
グラフィカル インタフェース	7
ウィザード	7

リモート管理	8
別売りのオプション	9
第2章 インストールと初期設定	11
Windows NT/2000 へのストレージデバイスの設定	12
NetBackup BusinessServer のインストール	13
インストール要件	13
NetBackup BusinessServer のインストール方法	13
アップグレード インストールの実行	15
インストール要件	15
3.4 へのアップグレードに関する注意事項	15
ソフトウェアをインストールするには	16
初期設定ウィザードによるサーバーの設定	17
NetBackup 管理インタフェースの起動	17
初期設定ウィザード	18
NetBackup クライアントのインストール	21
Windows 95/98/2000/NT 4.0	21
NetWare Target および Nontarget	21
Macintosh	22
OS/2 Warp	23
UNIX	23
別の管理インタフェースのインストール	24
NetBackup 管理クライアント	24
NetBackup-Java Display Console for Windows	25
NetBackup のエージェントとオプションのインストール	26
第3章 日常の管理	27
NetBackup アシスタント	28
ストレージ デバイスの管理	29
デバイスの管理	29
ストレージ ユニットの管理	32

デバイスの監視	34
ボリュームの管理	36
ボリュームの設定ウィザード	36
[メディアとデバイス管理]ユーティリティ	37
メディア（テープ）の管理	38
カタログ バックアップ メディア（テープ）の管理	38
Media Manager の設定へのボリューム（テープ）の追加	41
カタログ バックアップの設定	43
カタログ バックアップに必要なメディアの選択	43
カタログ バックアップのスケジュールの選択	44
NetBackup カatalog バックアップ ウィザードの使い方	45
カタログ バックアップのリストア方法	45
バックアップ ポリシー（クラス）の設定	46
NetBackup 設定のテスト	48
自動電子メール通知の設定	49
一般的な通知の場合	49
クライアント アクティビティの通知	50
UNIX クライアントでのユーザー指定のアクティビティの通知	51
レポートの生成	52
別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバーの設定	54
NetBackup クライアント インタフェースの使い方	55
Windows 95/98/2000/NT 4.0	55
NetWare Target	57
NetWare NonTarget	58
Macintosh	59
OS/2 Warp	60
UNIX	60
第4章 トラブルシューティング	63
トラブルシューティング手順	64

トラブルシューティング ウィザード	65
[アクティビティ モニタ] ウィンドウからのアクセス	65
[レポート] ウィンドウからのアクセス	65
トラブルシューティング ウィザードの使い方	66
付録 A 関連マニュアル	67
リリース ノート	67
入門ガイド	67
入門カード	67
インストール ガイド	68
システム管理者ガイド - 基本製品	68
システム管理者ガイド - エージェントとオプション	68
ユーザー ガイド	73
デバイス設定ガイド - Media Manager	74
トラブルシューティング ガイド	74
付録 B NetBackup BusinessServer とクライアントの	
アンインストール/再インストール	75
BusinessServer のアンインストール方法	75
BusinessServer のアンインストールおよび再インストール方法	75
NetBackup クライアントのアンインストール方法	76
UNIX NetBackup クライアント ソフトウェアのアンインストール方法	76
索引	79

まえがき

本書では、NetBackup システム管理者向けに NetBackup BusinessServer™ インストール、設定、および使用について説明します。NetBackup システム管理者は、NetBackup を使用したバックアップおよびリストア計画の保守を担当します。

本書は、以下の事項を前提とします。

- ◆ Windows NT システム管理に関する基本的な知識を有していること。
- ◆ NetBackup BusinessServer のインストール先の Windows NT システムに関する経験を有していること。
- ◆ SCSI デバイスがオペレーティング システムに正しく装着され、設定されていること。

注意 デバイスがオペレーティング システムに正しく設定されていない場合は、そのデバイスに対して行われたバックアップのリストアが困難になることがあります。

本書の構成

- ◆ 第1章「はじめに」では、NetBackup BusinessServer について簡単に紹介し、主な機能について説明します。
- ◆ 第2章「インストールと初期設定」では、ソフトウェアのインストール手順について説明します。ウィザードを使用する場合とその使い方についても詳しく説明します。
- ◆ 第3章「日常の管理」では、NetBackup の日常的な操作手順について説明します。NetBackup の操作に関するステータスの確認とテープの管理については、ここで説明します。設定ウィザードを補完する高度な設定手順についても説明します。
- ◆ 第4章「トラブルシューティング」では、NetBackup のエラーをトラブルシューティングする際のガイドラインを提供します。
- ◆ 付録A「関連マニュアル」では、NetBackup のマニュアルについて説明します。
- ◆ 付録B「NetBackup BusinessServer とクライアントのアンインストール/再インストール」では、NetBackup ソフトウェアをアンインストールまたは再インストールする方法について説明します。

製品の更新に関する電子メール通知

製品の更新に関する電子メール通知

NetBackup BusinessServer製品のニュースと更新情報を電子メールで通知されるようにするには、以下の手順でサインアップします。

1. www.veritas.com にアクセスします。
2. [Support] をクリックします。
3. [Technical Support Services] で、[Email Notification] リンクをクリックします。
4. 必要な情報を入力し、製品の一覧で [NetBackup BusinessServer] を選択します。

表記規則

本書で採用している一般的な表記規則について説明します。

一般の表記規則

表 1. 一般の表記規則

表記	用途
英字等幅フォント太字	入力する文字。例： cd と入力して、ディレクトリを変更してください。
英字等幅フォント	パス、コマンド、ファイル名、および出力。例：デフォルトのインストールディレクトリは /opt/VRTSxx です。
『』	ドキュメントなどのタイトル。
「」	章や項目のタイトル、強調する用語。
英字ゴシック体 (斜体)	プレースホルダーテキストまたは変数。例： <i>filename</i> には、実際のファイル名を指定してください。
英字ゴシック体 (斜体以外)	フィールド名、メニュー項目など、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) のオブジェクト。例：[Password] フィールドに、パスワードを入力してください。

「注」と「注意」の違い

注 「注」はこのように表記され、製品をより簡単に使用するための情報や、問題を回避するための情報を取り上げます。

注意 「注意」はこのように表記され、データの損失につながる可能性がある状況を警告します。

キーの組み合わせ

キー操作によるコマンドでは、同時に複数のキーを使用する場合があります。たとえば、**Ctrl** キーを押しながら、別のキーを押します。このようなコマンドは、プラス記号 (+) でつないで表記します。

例: **Ctrl+T** を押します。

コマンドの書式

コマンドの書式では、以下の表記規則が一般的に使用されます。

角かっこ []

コマンドライン内にある角かっこで囲まれたコンポーネントは、オプションのコンポーネントです。

垂直バーまたはパイプ (|)

オプションの引数を区切ります。ユーザーは、これらのオプションの引数から必要な引数を選択できます。たとえば、コマンドの書式が次のとおりとします。

```
command arg1|arg2
```

ユーザーは、**arg1** または **arg2** のいずれかの変数を使用できます。

テクニカル サポート

テクニカル サポート

この製品に関するシステム要件、サポートされているプラットフォーム、サポートされている周辺機器、テクニカル サポートから入手できる最新のパッチなどの最新情報については、弊社の Web サイトをご利用ください。

<http://www.veritas.com/jp> (日本語)

<http://www.veritas.com/> (英語)

製品に関するサポートは、VERITAS テクニカル サポートまでお問い合わせください。

電話 : (03)3509-9210

FAX : (03)5532-8209

VERITAS カスタマ サポートへのお問い合わせの際は、次の電子メール アドレスもご利用いただけます。

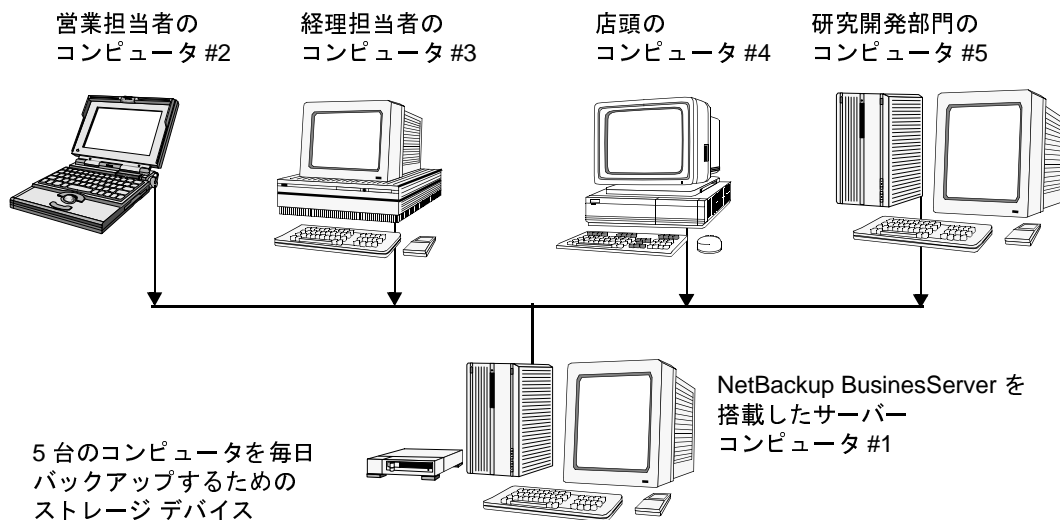
support.jp-es@veritas.com



はじめに

1

NetBackup BusinessServer は、1 台のサーバーと最大 4 台のリモート コンピュータのデータのバックアップとリストアにおいて、操作性と信頼性に優れたソリューションを提供します。代表的な設置例を次の図に示します。



サーバー (コンピュータ #1) には、NetBackup BusinessServer ソフトウェアがインストールされています。リモート コンピュータ (#2 ~ #5) には、NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされています。

この章では、NetBackup の主要な用語について説明します。NetBackup BusinessServer の機能についても説明します。

NetBackup BusinessServer とは

NetBackup BusinessServer とは

NetBackup BusinessServer は、NetBackup DataCenter 製品の簡易バージョンです。NetBackup DataCenter サーバーは、多数のリモート コンピュータおよびハイエンド ストレージ デバイスをサポートし、大規模で複雑なコンピュータ ネットワーク向けの機能を提供します。一方、NetBackup BusinessServer は、サーバーと最大でも 4 台 (Client Expansion Pack を使用する場合は最大 8 台) のリモート コンピュータのバックアップを行う小規模ネットワーク向けに設計されています。また、機能が制限された中小規模のストレージ デバイスを使用します。

NetBackup BusinessServer は、NetBackup DataCenter の機能の大半を継承しています。ここでは、その機能の一部について説明します。

バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて

バックアップ ポリシー

「バックアップ ポリシー」とは、ビジネス データをバックアップするための NetBackup の設定です。各バックアップ ポリシー (クラス) は、共通のバックアップ要件を持つ 1 ~ 4 台のクライアントのグループに対してバックアップ方法と時期を指定します。バックアップ ポリシーでは、以下の項目を定義します。

- ◆ バックアップ対象のコンピュータ
- ◆ バックアップ対象のファイルとフォルダ
- ◆ バックアップを行う時期と回数
- ◆ バックアップの保持期間
- ◆ バックアップの保存先
- ◆ バックアップをカスタマイズするためのその他の属性

バックアップ ポリシーの設定の詳細については、46 ページの「バックアップ ポリシー (クラス) の設定」を参照してください。

注 本書では、バックアップ ポリシーによって定義されるバックアップを「レギュラー バックアップ」と呼び、「カタログ バックアップ」と呼ばれる別の種類のバックアップと適宜区別しています。

カタログ バックアップ

レギュラーバックアップに関する重要な情報は、「カタログ」と呼ばれる特別なファイルのセットに保存されます。カタログには、設定、ステータス、エラー、および **BusinessServer** によってバックアップされたファイルとフォルダに関する情報が記録されます。カタログには、データのバックアップ先も記録されます。カタログ内の情報は、**NetBackup** の操作に必要です。カタログバックアップは、カタログのバックアップ コピーのことです。

ディスクの障害によってカタログ ファイルが失われた場合は、カタログ バックアップからカタログをリストアするのが最も簡単です。これにより、バックアップしておいたデータをリストアし、レギュラーバックアップをスケジュール通りに再開することができます。

カタログバックアップの設定の詳細については、43 ページの「カタログバックアップの設定」を参照してください。

機能の紹介

ここでは、**NetBackup BusinessServer** に関する **NetBackup** の用語と機能を紹介します。

各機能の詳細については、『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT/2000**』を参照してください。

サーバー

サーバーは、**NetBackup BusinessServer** ソフトウェアがインストールされているコンピュータです。**NetBackup BusinessServer** には、コマンドライン インタフェースとグラフィカル ユーザー インタフェースの両方があります。いずれのインタフェースでも、以下の操作を行うことができます。

- ◆ サーバーと最大 4 台 (**Client Expansion Pack** を使用した場合は 8 台) のリモート コンピュータに対するバックアップ操作を設定する。
- ◆ 自動の無人バックアップ (レギュラー バックアップ) をスケジュールする。たとえば、昼間の通常の操作に支障がないように、自動バックアップを夜間だけに行うようにスケジュールすることができます。
- ◆ 各クライアントの手動バックアップを実行する。
- ◆ クライアントのユーザーが独自にバックアップとリストアを実行できるようにする。
- ◆ バックアップの保存先を指定する。
- ◆ バックアップ データの保持期間を指定する。
- ◆ データのリストア先を指定する。
- ◆ **NetBackup** のバックアップとリストアを確認、管理、およびトラブルシューティングのためのレポートを生成する。各レポートには、**NetBackup** のサーバーおよびクライアントのステータスや問題に関する情報が表示されます。

機能の紹介

- ◆ バックアップ ジョブおよびリストア ジョブのステータスを監視する。
- ◆ テープ デバイスおよびストレージ デバイスを設定し、管理する。

注 NetBackup DataCenter ではメディア サーバーと呼ばれるリモート NetBackup サーバーに接続されたテープ ドライブを利用できます。NetBackup BusinessServer ではリモート メディア サーバーを使用できません。BusinessServer システムでデバイスを設定する場合は、以下のすべての用語が NetBackup サーバー コンピュータを指すことに注意してください。

- マスター サーバー
- メディア サーバー
- Media Manager ホスト
- ボリューム データベース ホスト
- デバイス ホスト
- ロボット制御ホスト

クライアント

NetBackup BusinessServer では、サーバーと NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされた最大 4 台 (Client Expansion Pack を使用した場合は最大 8 台) のリモート コンピュータをバックアップできます。通常、コンピュータは以下のような組み合わせで使用できます。NetBackup によってサポートされているオペレーティング システムのバージョンとハードウェアの種類の詳細については、『NetBackup Release Notes』を参照してください。

AIX	HP-UX HP900-800	OS/2
Auspex	IRIX	ReliantUNIX
Compaq Tru64	Linux	SCO
DG/UX	Macintosh	Solaris
DYNIX/ptx	NCR SVR4MP-RAS	Windows NT/2000、95、98
HP-UX HP900-700	NetWare	UNIX

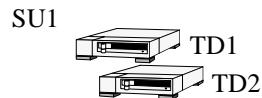
Media Manager

Media Manager は、NetBackup の一部であり、ロボット、テープドライブ、およびリムーバブルメディア（通常はテープ）の管理に使用します。NetBackup の管理画面では、リムーバブルメディアをボリュームと呼びます。Media Manager の主なツールは、以下の通りです。

- ◆ [メディアとデバイス管理] グラフィカル インタフェース。ストレージ デバイスとボリュームを設定するためのユーティリティです。
- ◆ [デバイス モニタ] グラフィカル インタフェース。ボリュームに対する保留中のリクエストが表示されます。デバイスの制御および管理に使用します。
- ◆ デバイスの設定ウィザード
- ◆ ボリュームの設定ウィザード

ストレージ ユニット

ストレージユニットは、バックアップ データが保存されるストレージデバイスのコレクションです。ストレージユニットは、1 台のロボットと最大 2 台のドライブまたは 2 台のスタンドアロン テープ ドライブで構成されます。スタンドアロンドライブは、ロボットに含まれない単独のドライブです。たとえば、2 台のスタンドアロン テープ ドライブ (TD1 と TD2) で SU1 という単一のストレージユニットを構成できます。2 台のドライブで単一のストレージユニットを構成する場合は、両方のドライブのタイプが同じでなければなりません。



この例では、ストレージユニット SU1 は物理デバイスではありません。ストレージユニット SU1 は、2 台のストレージ デバイスで構成されたグループです。

タイプの異なるテープ ドライブをそれぞれ別のストレージユニットに挿入する方法もあります。ストレージユニットを構成すると、使用中のストレージ デバイスがある場合に、バックアップ ジョブを別のストレージ デバイスに送ることができます。ストレージユニットを使用すると、バックアップごとに使用するデバイスのグループを指定することもできます。

機能の紹介

複数のデータ ストリーム

NetBackup BusinessServer では、単一のバックアップ ポリシーを使用して、クライアントの複数のファイルまたはフォルダを同時にバックアップできます。たとえば、NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされたリモート コンピュータに 2 台のハード ディスクドライブがあるとします。

- ◆ ドライブ C:には、給与計算ソフトウェアおよびファイルを含むフォルダがあります。
- ◆ ドライブ D:には、税金情報を含むフォルダがあります。

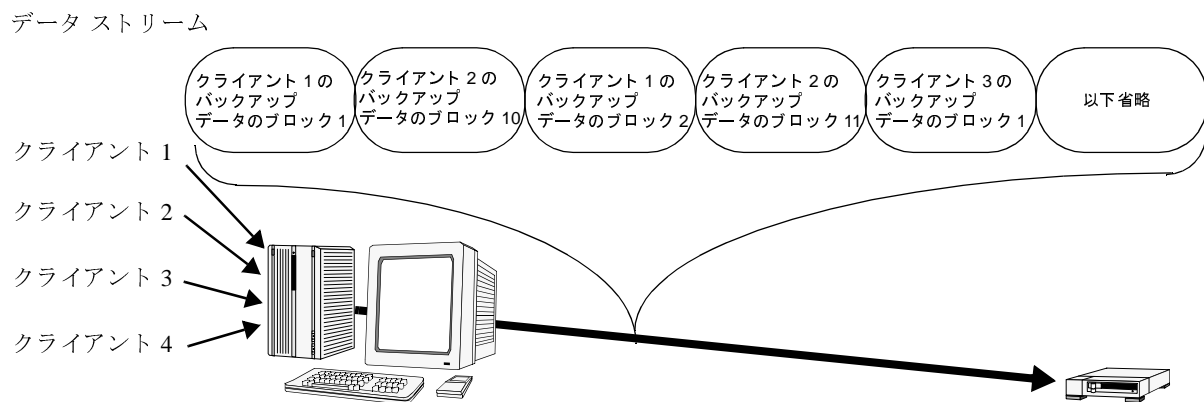
両方のフォルダを夜間に短時間でバックアップするには、両方のフォルダを同時にバックアップするように NetBackup BusinessServer を設定します。

注 複数の異なるドライブのバックアップを並行処理すると処理時間を短縮できます。同じドライブの複数のバックアップを並行処理すると、かえって時間がかかるため、お勧めできません。

処理が遅くなるのは、複数のデータ ストリームのトラック間をドライブ ヘッドが往復しなければならないためです。ドライブ ヘッドの余分な往復によって、ドライブの磨耗も進みます。データが複数の異なるドライブにある場合は、ドライブ ヘッドの余分な往復はありません。

マルチプレキシング

マルチプレキシングを使用すると、最大 8 つのバックアップを同時に単一のテープに送信できます。マルチプレキシングでは、バックアップ データの各ブロックがテープ上にインターリーブされます。次の図は、4 台のクライアントのデータ ストリームがマルチプレキシングによって保存される方法を示しています。



並行処理されるバックアップの数が 8 を超えると、余分なジョブはほかのジョブが終了するまでキューに入ります。

グラフィカル インタフェース

NetBackup には、以下のグラフィカル インタフェースがあります。

- ◆ NetBackup 管理インタフェース。サーバー側で NetBackup の設定、スケジューリング、監視、および管理を実行できます。
- ◆ NetBackup ユーザー インタフェース。クライアント側でバックアップ、アーカイブ、およびリストアを開始できます。

ウィザード

NetBackup BusinessServer には、以下のウィザードがあります。

ウィザード	説明
初期設定	<p>手順を追って NetBackup を設定するためのヘルプを提供します。このウィザードでは、以下の初期設定手順を処理できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイスの設定ウィザード ◆ ボリュームの設定ウィザード ◆ カタログ バックアップ ウィザード ◆ バックアップ ポリシーの作成ウィザード ◆ 設定を確認するためのテスト <p>詳細については、17 ページの「初期設定ウィザードによるサーバーの設定」を参照してください。</p>
デバイスの設定	<p>ロボットとドライブを定義できます。詳細については、29 ページの「デバイスの設定ウィザード」を参照してください。</p>
ボリュームの設定	<p>ロボットおよびスタンドアロン ドライブのボリュームを定義できます。詳細については、36 ページの「ボリュームの設定ウィザード」を参照してください。</p>
NetBackup カタログ バックアップ	<p>NetBackup カタログのバックアップ方法と時期を設定できます。詳細については、45 ページの「NetBackup カタログ バックアップ ウィザードの使い方」を参照してください。</p>
バックアップ ポリ シーの設定	<p>単一のクライアントまたはクライアントのセットに対してレギュラー バックアップを設定できます。この設定はバックアップ ポリシーと呼ばれます。詳細については、46 ページの「ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成」を参照してください。</p>
トラブルシューティ ング	<p>バックアップまたはリストアの失敗の原因となった問題を解決できます。詳細については、65 ページの「トラブルシューティング ウィザード」を参照してください。</p>

トラブルシューティングを除くすべてのウィザードは、NetBackup アシスタントから起動できます。アシスタントは、NetBackup 管理インタフェースが起動するたびに表示されます。ただし、アシスタントで [起動時にアシスタントを常に表示] チェックボックスが選択されていない場合を除きます。

リモート管理

リモート管理

別の同等または下位バージョンの NetBackup サーバーを管理するには、NetBackup サーバーで NetBackup 管理インターフェースを使用します。バージョンが異なる場合は、一部の操作が実行できないことがあります。下位バージョンのサポートの詳細については、『NetBackup Release Notes』で「操作上の注意」の「全般」を参照してください。ほかの NetBackup サーバーをリモート管理するためにシステム上の NetBackup を設定するには、ほかに以下の 2 通りの方法があります。

- ◆ NetBackup 管理クライアント
- ◆ NetBackup-Java Display Console for Microsoft Windows

NetBackup 管理クライアント

NetBackup 管理クライアントは、Windows NT/2000 版の NetBackup です。UNIX または Windows NT/2000 の NetBackup サーバーをリモート管理できます。このバージョンには、リモート NetBackup サーバーでのバックアップの設定、ボリュームの管理、ステータスの表示、テープドライブの監視などに必要な NetBackup BusinessServer のすべての標準インターフェースが含まれています。

注 NetBackup 管理クライアントは、NetBackup サーバーとしては使用できません。ほかの NetBackup サーバー (UNIX または Windows NT/2000) をリモート管理するためだけに使用します。

NetBackup-Java Display Console for Microsoft Windows

NetBackup-Java Display Console を使用すると、Windows NT/2000、98、または 95 の各システムで NetBackup の Java インターフェースを使用できます。PC 上の Java インターフェースを使用して UNIX NetBackup サーバーにログオンできます。この方法により、ログオンした UNIX サーバーで NetBackup のすべての機能を実行できます。たとえば、サーバーのファイルシステムをブラウズし、[バックアップ、アーカイブ、およびリストア]ユーティリティを使用してバックアップを開始できます。

別売りのオプション

NetBackup BusinessServer では、以下の別売りのオプションも使用できます。

データベース エージェント

- ◆ NetBackup for Oracle on UNIX
- ◆ NetBackup for Oracle on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for Sybase on UNIX
- ◆ NetBackup for Informix on UNIX
- ◆ NetBackup for Lotus Notes for UNIX
- ◆ NetBackup for Lotus Notes on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for MS-SQL Server on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for MS Exchange Server on Windows NT/2000

機能のアドオン

- ◆ Intelligent Disaster Recovery (IDR)。障害後の Windows NT 4.0/2000 コンピュータをすばやくリカバリできます。
- ◆ Open Transaction Manager (OTM)。Windows NT/2000 クライアントで開いている（現在使用されている）ファイルをバックアップできます。
- ◆ NetBackup Encryption (40 ビットまたは 56 ビット)。バックアップおよびアーカイブをファイル レベルで暗号化できます。
- ◆ NDMP。NDMP (Network Data Management Protocol) を使用すると NDMP ホストでのバックアップとリストアを制御できます。
- ◆ Client Expansion Pack。最大 4 台までのクライアントを追加できます。

Global Data Manager

- ◆ Global Data Manager (GDM)。単一のコンソールから複数の NetBackup サーバーを同時に管理できるようになります。

別売りのオプション

インストールと初期設定

2

NetBackup BusinessServer に用意されているウィザードを使用すると、ソフトウェアのインストールと設定を簡単に行うことができます。

この章では、NetBackup BusinessServer のインストールと設定に関する以下の手順について説明します。

- ◆ Windows NT/2000 へのストレージ デバイスの設定
- ◆ NetBackup BusinessServer のインストール
- ◆ アップグレード インストールの実行
- ◆ 初期設定ウィザードによるサーバーの設定
- ◆ NetBackup クライアントのインストール
- ◆ 別の管理インタフェースのインストール (オプション)
- ◆ NetBackup のエージェントとオプションのインストール (オプション)

注 製品更新に関する電子メール通知にまだサインアップしていない場合は、ここでサインアップしてください (「まえがき」の「製品の更新に関する電子メール通知」を参照)。

Windows NT/2000 へのストレージ デバイスの設定

Windows NT/2000 へのストレージ デバイスの設定

NetBackup BusinessServer の安定した使用には、ストレージ デバイスの適切な設定が大きく影響します。信頼性の高いバックアップとリストアを確保するためには、デバイスのベンダおよび Microsoft 社が提供する指示書に従って、Windows NT/2000 にデバイスを設定する必要があります。この設定は、BusinessServer 設定する前に行ってください。

注意 デバイスを正しく設定しないと、リストア時にデータが失われるおそれがあります。

1. ストレージ デバイスのベンダおよび Microsoft 社が指定するすべての設定手順を完了してください。
2. VERITAS Tape Installer アプリケーションを使用します。これにより、Windows NT/2000 がテープ デバイスを認識できるようになり、各デバイスのドライバがロードされます。

この時点で NetBackup BusinessServer をインストールできます。

NetBackup BusinessServer のインストール

インストール要件

サーバーソフトウェアのインストールには約 10 分かかります（環境に合わせて製品を設定する場合は、さらに時間が必要です）。インストールの前に、以下の要件を確認します。

- ◆ Microsoft Windows NT Version 4.0 (Service Pack 4) または Windows 2000 を実行し、少なくとも 32MB のメモリを搭載した Intel Pentium システム。
- ◆ サーバーの Administrator アカウントとパスワード。
- ◆ 十分な空きディスク領域。
 - ◆ Intelサーバーソフトウェアには、約78メガバイトが必要です。DEC Alphaサーバーソフトウェアには、約 100 メガバイトが必要です。
 - ◆ オンライン マニュアル（インストールする場合）には、約 16 メガバイトが必要です。
 - ◆ NetBackup カタログには、バックアップに関する情報が含まれており、製品の使用に伴ってサイズが増加します。カタログに必要なディスク領域は、主にバックアップするファイルの数、バックアップの頻度、およびバックアップ データを保持する期間によって異なります。250 メガバイト用意することをお勧めします。
- ◆ 製造元の説明書に従ってインストールされ、Windows NT/2000 Server ソフトウェアによって認識されている周辺機器。
- ◆ コンピュータによって認識され、コンピュータ間で通信できるように設定されたネットワーク。通常、ping コマンドを使用してサーバーからクライアントに接続できる場合は、セットアップは NetBackup で動作します。
- ◆ 長いファイル名をサポートする NetBackup インストールパーティション。NTFS パーティションを使用することをお勧めします。

NetBackup BusinessServer のインストール方法

注 サーバーのインストール プロセスは、サーバー システムにクライアント ソフトウェアもインストールします。ただし、ほかのシステムへの PC クライアント ソフトウェアのインストールはこれとは別に行われます（『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照）。

NetBackup アドオン製品（NetBackup for Microsoft SQL Server など）をインストールする場合は、ソフトウェアに付属するインストールの説明書を参照してください。

NetBackup BusinessServer のインストール

1. NetBackup をインストールするサーバーに管理者としてログインします。
2. NetBackup CD-ROM をドライブに挿入します。
 - ◆ CD-ROMドライブの自動再生が有効になっているシステムの場合は、NetBackupインストールプログラムが自動的に起動します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunI.exe プログラムを実行します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Digital Alpha プロセッサ搭載の Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunA.exe プログラムを実行します。
3. [NetBackup - インストール] 画面で、[NetBackup Server for Microsoft Windows NT] の下にある [インストール] オプションをクリックします。[よろこそ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [次へ] をクリックし、セットアッププログラムのプロンプトに従います。

アップグレード インストールの実行

インストール要件

通常、サーバーにある NetBackup のリリース レベルは、少なくともクライアント のリリース レベルと等しくする必要があります。サーバーソフトウェアのバージョンがクライアントより古い場合は、問題が発生するおそれがあります。

3.4 へのアップグレードに関する注意事項

注意 マスターサーバーの NetBackup ソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログの現在のバックアップがあるかどうかを確認します。

- ◆ NetBackup のインストールプログラムは、NetBackup の既存のインストールを削除し、必要に応じて NetBackup をアップグレードまたは再インストールできるようにします。再インストールは、インストールが破損した場合に役立ちます。
- ◆ NetBackup の種類を変更する必要がある場合は、インストールの開始時に画面のオプションを選択して種類を変更します。
- ◆ すべての NetBackup サーバーのリリース レベルが同じでなければなりません。以下の順序でアップグレードすることをお勧めします。
 - ◆ マスターサーバー。
 - ◆ 管理クライアント（存在する場合）。
 - ◆ NetBackup クライアント。可能な場合は、クライアントをアップグレードします。ただし、NetBackup クライアントソフトウェアの古いリリース レベルもサポートされています（「インストール要件」を参照）。
- ◆ インストールが終了したら、アップグレード後のクライアントで、NetBackup for Oracle などの別売りのオプションをアップグレードします。別売りのオプションは、NetBackup クライアントと同じレベルでなければなりません。

アップグレード インストールの実行

ソフトウェアをインストールするには

1. NetBackup をインストールするサーバーに管理者としてログインします。
2. NetBackup CD-ROM をドライブに挿入します。
 - ◆ CD-ROMドライブの自動再生が有効になっているシステムの場合は、NetBackupインストールプログラムが自動的に起動します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunI.exe プログラムを実行します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Digital Alpha プロセッサ搭載の Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunA.exe プログラムを実行します。
3. [NetBackup - インストール] 画面で、[NetBackup Server for Microsoft Windows NT] の下にある [インストール] オプションをクリックします。[ようこそ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [次へ] をクリックし、セットアッププログラムのプロンプトに従います。

初期設定ウィザードによるサーバーの設定

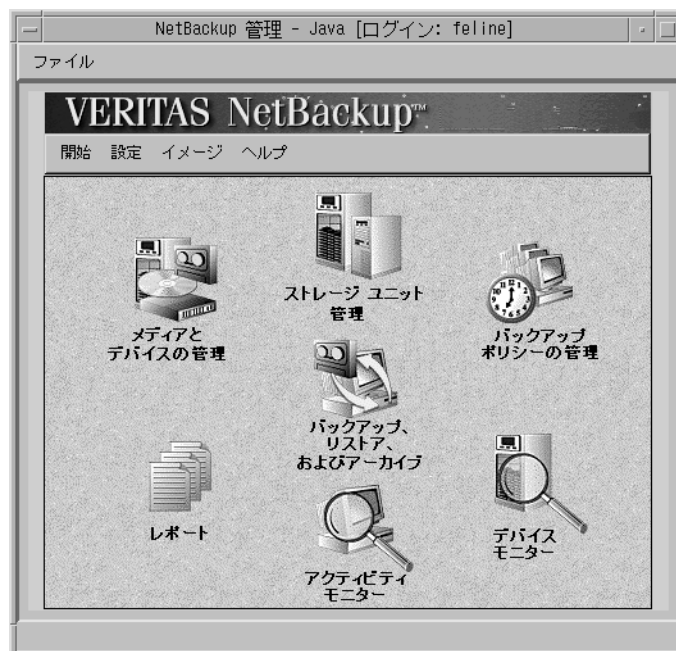
初期設定ウィザードを使用すると、NetBackup を設定することができます。このウィザードでは、テスト バックアップを実行し、設定が正常に完了していることを確認することもできます。

注 Windows NT/2000 にストレージ デバイスが正しく設定されている必要があります。NetBackup が信頼できるレベルで機能するためには、デバイスが正しくインストールおよび設定されていなければなりません (12 ページの「Windows NT/2000 へのストレージデバイスの設定」を参照)。

NetBackup 管理インターフェースの起動

インストールが完了すると、画面に「NetBackup セットアップウィザードを完了していません」と表示されます。デフォルトでは、[完了] をクリックすると、NetBackup 管理インターフェースが自動的に起動します。[NetBackup 管理を今すぐ起動する] という項目のチェックボックスをクリアすると自動的に起動しません。この項目をクリアし、その後管理インターフェースを起動する場合は、以下の手順に従います。

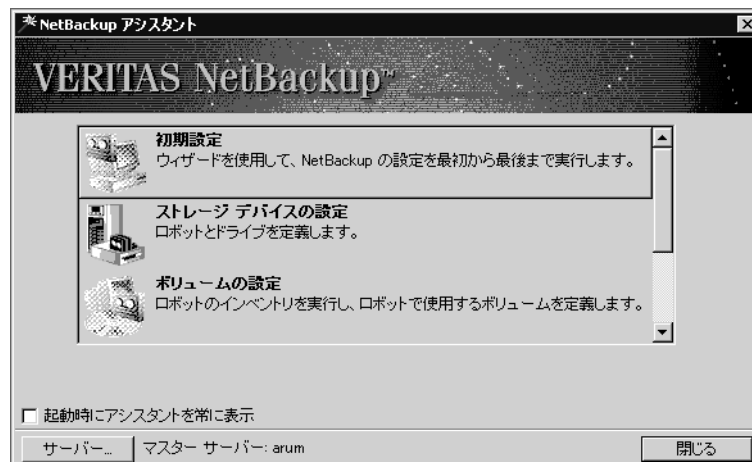
1. Windows NT/2000 の管理者として NetBackup サーバーにログオンします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。[プログラム] メニューの [VERITAS NetBackup] をポイントし、[NetBackup 管理] をクリックします。[NetBackup 管理] ウィンドウが表示されます。



初期設定ウィザードによるサーバーの設定

初期設定ウィザード

NetBackup を設定する最も簡単な方法は、初期設定ウィザードを使用することです。このウィザードは、インストール後に自動的に起動します。



初期設定ウィザードでは、以下の手順で NetBackup を設定できます。

◆1. ストレージ デバイスの設定

バックアップを実行する前に、NetBackup のストレージ デバイスを定義します。[次へ] をクリックし、表示される指示に従います。この手順については、29 ページの「ストレージ デバイスの管理」を参照してください。

◆2. ボリュームの設定

ストレージ デバイスを設定したら、次にボリュームを設定します。この手順では、各ロボットのインベントリを開始します。インベントリ中に新しいロボット メディアが見つかると、ボリューム データベースが自動的に更新されます。この手順では、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームも定義します。この手順については、36 ページの「ボリュームの管理」を参照してください。

◆3. カタログ バックアップの設定

ボリュームを設定したら、次にカタログ バックアップを設定します。[初期設定] 画面で [次へ] をクリックします。

NetBackup のカタログには、設定に関する情報とバックアップされたファイルおよびフォルダに関する情報が記録されます。ディスクに障害が発生してカタログが失われた場合は、カタログのバックアップを使用してバックアップされたデータを簡単にリストアし、バックアップ スケジュールを再開することができます。したがって、データをバックアップする前にカタログ バックアップを設定する必要があります。この手順の詳細については、43 ページの「カタログ バックアップの設定」を参照してください。

◆4. バックアップ ポリシーの作成

カタログ バックアップを設定したら、次にバックアップ ポリシーを設定します。[初期設定] 画面で [次へ] をクリックします。

この手順では、クライアントのグループに対してバックアップ クラスを定義します。つまり、バックアップする時期、ファイル、クライアントなどの一般的な属性を指定してバックアップ方法を定義します。この手順の詳細については、46 ページの「バックアップ ポリシー (クラス) の設定」を参照してください。

◆5. NetBackup の設定のテスト

最後に、設定をテストします。

テスト バックアップを行う場合は、[デバイス モニタ] ウィンドウおよび [アクティビティ モニタ] ウィンドウが表示されます。

デバイス モニタ

注 ここでは、スタンドアロン ドライブの場合について説明します。

デバイス モニタで実行するアクションは、ドライブにテープが入っているかどうか、および NetBackup のカタログ バックアップとレギュラー バックアップに必要なテープが設定済みであるかどうかによって異なります。

- ◆ テスト バックアップを開始する前に新しい未使用のテープをドライブに挿入した場合は、新しいメディア ID が自動的に作成され、このメディア ID がテープのヘッダに書き込まれ、バックアップが開始されます。作成されたメディア ID は、デバイス モニタの上部のペインにあるドライブの [RVSN] カラムに表示されます。新しいメディア ID は書き留めておきます。バックアップの終了後にテープの外側にラベルを貼り、そのラベルにメディア ID を記入します。このようにしておくと、次回にテープを使用するときに簡単に見つけることができます。

初期設定ウィザードによるサーバーの設定

- ◆ ドライブにテープが入っていないが、カタログ バックアップとレギュラー バックアップの両方に必要なテープが設定済みである場合は、デバイス モニタの下部のペインに、いずれかのテープに対する要求が表示されます。この場合は、以下の操作を行います。
 - a. 使用するテープの外側にラベルを貼り、そのラベルにNetBackupから要求されているメディア ID を記入します。
 - b. テープをドライブに挿入します。
 - c. デバイス モニタの下部のペインで、要求を選択します。
 - d. デバイス モニタの上部のペインで、ドライブを選択し、[要求の割当て] ボタンをクリックします。

要求が下部のペインから消え、その ID がドライブの [要求 ID] カラムに表示されます。次に、このメディア ID がテープのヘッダに書き込まれ、バックアップが開始されます。
- ◆ ドライブにテープが入っていないで、必要なテープの設定も行っていない場合は、テスト バックアップは開始されず、失敗します。この場合は、ボリュームの設定ウィザードを使用してテープを設定し、クラス、クライアント、またはスケジュールの手動バックアップを実行して NetBackup の設定をテストします。

アクティビティ モニタ

アクティビティ モニタには、実行予定のスケジュールされた NetBackup ジョブが表示されます。アクティビティ モニタの画面が更新されると、テスト バックアップ ジョブがリストに表示されます。ジョブが実行されている間、進行状況を監視し、ジョブの完了を確認することができます。[更新] ボタンをクリックすると、いつでも画面が更新されます。ジョブの詳細を表示するには、ジョブをダブルクリックします。メイン ウィンドウに表示される内容より詳しい情報がステータス ウィンドウに表示されます。

NetBackup クライアントのインストール

BusinessServer コンピュータ (NetBackup サーバー) は NetBackup クライアントとしても定義されます。NetBackup ソフトウェアをインストールすると、NetBackup サーバーと NetBackup クライアントの両方のソフトウェアがサーバー マシンにインストールされます。BusinessServer のリモート クライアントの最大数である 4 台 (Client Expansion Pack を使用した場合は 8 台) の中には、サーバーは含まれません。

以下に NetBackup クライアント ソフトウェアをインストールするための簡単な手順を示します。PC クライアントへのソフトウェアのインストールと設定の詳細については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。

Windows 95/98/2000/NT 4.0

注 Open Transaction Manager (OTM) は、BusinessServer の別売りのオプションです。クライアントのサーバーが NetBackup BusinessServer である場合は、この機能のライセンス キーをサーバーに登録してこの機能を有効にする必要があります。

CD-ROM から PC_ClnT¥Win32¥Setup.exe を実行します。

NetWare Target および Nontarget

注 Open Transaction Manager (OTM) は、BusinessServer の別売りのオプションです。クライアントのサーバーが NetBackup BusinessServer である場合は、この機能のライセンス キーをサーバーに登録してこの機能を有効にする必要があります。

OTM for NetWare のインストール

NetWare 3.x および 4.x :

1. OTMSK.DSK をサーバーの DOS パーティションにコピーします。
2. サーバーの DOS パーティションにある STARTUP.NCF を変更して、ほかの DSK ドライバがロードされる前に OTMSK.DSK がロードされるようにします。
3. NetWare ファイル サーバーをリブートします。

NetWare 3.x、4.x、および 5.x :

CD-ROM の PC_ClnT¥NetWare¥NLM ディレクトリから、OTMCDM.NLM、OTMLAPI.NLM、OTMLOAD.NLM、および PMTHREAD.NLM を NetWare ファイル サーバーにコピーします。

NetBackup クライアントのインストール

NetBackup のインストール

注 NDS (NetWare Directory Services) ファイルのバックアップとリストアを行うために `tsands.nlm` をインストールする必要があります。

バージョンに対応した NLM もインストールする必要があります。NLM は、`tsaxxx.nlm` という形式を持ち、NetWare サーバーのリリースレベルに応じて Novell から提供されます。たとえば、Netware 5.0 サーバーに対応する NLM は、`tsa500.nlm` です。

1. CD-ROM の `PC_Clnet\NetWare\NLM` ディレクトリから、`BP.NLM`、`BPSRV.NLM`、`BPSMS.HLP`、および `BPCD.NLM` をファイルサーバーの `sys:system` ディレクトリにコピーします。
2. `sys:` ボリュームに以下のディレクトリを作成します。
 - ◆ NetWare Target の場合
 - `Openv\NetBackup\logs`
 - `Openv\NetBackup\logs\altpath`
 - `Openv\NetBackup\logs\bpback`
 - `Openv\NetBackup\logs\bp prest`
 - `Openv\NetBackup\logs\bp cd` (オプション)
 - `Openv\NetBackup\tgts`
 - ◆ NetWare NonTarget の場合
 - `Openv\NetBackup\logs`
 - `Openv\NetBackup\logs\altpath`
 - `Openv\NetBackup\logs\bpsrv` (オプション)
 - `Openv\NetBackup\logs\bp cd` (オプション)
3. NonTarget クライアントの場合は、CD-ROM から `PC_Clnet\NetWare\Win32\Setup.exe` ファイルを実行します。
4. ホストファイルを変更して、NetBackup サーバーとその IP アドレスを含めます。

Macintosh

Macintosh のインストール手順については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。

OS/2 Warp

1. PC_C1nt¥OS2¥nbus2.exe を OS/2 Warp コンピュータの一時ディレクトリにコピーします。
2. 一時ディレクトリから nbus2.exe を実行してインストール ファイルを抽出します。
3. 一時ディレクトリから install.exe を実行して NetBackup for OS/2 をインストールします。

UNIX

1. NetBackup CD-ROM をクライアント コンピュータのドライブに挿入します。
HP システムのみ : NetBackup CD-ROM は Rockridge フォーマットであるため、以下のコマンドを入力してマウントする必要があります。

```
nohup pfs_mountd &  
nohup pfsd &  
pfs_mount -o xlat=unix /dev/dsk/device-ID /cdrom
```

device_ID は、CD-ROM ドライブの ID です。

2. 作業ディレクトリを以下の CD-ROM ディレクトリに変更します。

```
cd cd_rom_directory
```

cd_rom_directory は、CD-ROM にアクセスできるディレクトリのパスです。プラットフォームによっては、ディレクトリをマウントする必要があります。

3. インストール プログラムを起動します。

```
./install
```
4. オプション 2 の [NetBackup クライアント ソフトウェア] を選択します。
5. プロンプトに従ってインストールを完了させます。
6. HP システムのみ : CD-ROM をアンマウントするには、以下の手順に従います。

- ◆ pfs_umount コマンドを実行します。
- ◆ kill コマンドを使用して以下のプロセスを終了します。


```
pfs_mountd  
pfsd  
pfs_mountd.rpc  
pfsd.rpc
```

別の管理インタフェースのインストール

NetBackup 管理クライアント

NetBackup 管理クライアントは、Windows NT/2000 用の NetBackup クライアントのバージョンです。これを使用すると、1 台以上の UNIX または Windows NT/2000 NetBackup BusinessServer コンピュータをリモートから管理できます。Windows NT/2000 NetBackup クライアントから NetBackup BusinessServer をリモートに管理する必要がない場合は、この節を飛ばしてもかまいません。

NetBackup 管理クライアントを使用する前に、管理クライアントを実行するホストを管理対象のリモート BusinessServer コンピュータのサーバー リストに追加する必要があります。リストへの追加は、管理クライアントをインストールする前に行うことをお勧めします。

1. 管理クライアントのホストをリモート BusinessServer コンピュータのサーバー リストに追加するには、以下の手順に従います。
 - a. リモート BusinessServer コンピュータに移動します。
 - b. [NetBackup 管理] ウィンドウの [開始] メニューで、[NetBackup の設定] を選択します。
 - c. [設定 - NetBackup] ウィンドウの [設定グループ] ペインで BusinessServer の名前をマウスの右ボタンでクリックし、[プロパティ (読み取り / 書き込み)] を選択します。
 - d. [マスターサーバーのプロパティ] ウィンドウで、[サーバー] タブをクリックします。
 - e. [グローバル操作] ボックスの [すべてのリストへ追加] フィールドに NetBackup 管理クライアントを実行するホスト名を入力します。  ボタンをクリックします。
[その他のサーバー] リストにホスト名が表示されます。
 - f. [OK] をクリックします。
2. 管理クライアントのインストール先のコンピュータに移動します。
3. NetBackup サーバー ソフトウェアが入っている CD-ROM をドライブに挿入します。
 - ◆ CD-ROM ドライブの自動再生が有効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、NetBackup インストールプログラムが自動的に起動します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunI.exe プログラムを実行します。

別の管理インタフェースのインストール

4. [NetBackup - インストール] 画面で、[NetBackup サーバー] の下にある [インストール] オプションをクリックします。
[ようこそ] 画面で [次へ] をクリックすると、[NetBackup サーバー セットアップ タイプ] 画面に、[マスターサーバー] と [管理クライアント] の2つのインストールオプションが表示されます。
5. [管理クライアント] をクリックします。
6. プロンプトに従ってインストールを完了させます。

注 [NetBackupシステム名]画面では、管理クライアントの名前が最初のエントリフィールドに表示されます。リモートの NetBackup BusinessServer コンピュータの名前は、[マスターサーバー]フィールドに入力します。

ソフトウェアがインストールされる時、NetBackup のマニュアル一式も以下のディレクトリにインストールされます。

インストールパス ¥Help

デフォルトでは、インストールパスは C:¥Program Files¥VERITAS になります。

デフォルトでは、インストールプログラムの [完了] をクリックすると、管理クライアント インタフェースが直ちに起動します。デフォルトの設定を選択しなかった場合は、管理クライアント コンピュータにある Windows の [スタート] メニューで、[プログラム]、[VERITAS NetBackup]、[NetBackup 管理] を選択します。

NetBackup-Java Display Console for Windows

NetBackup-Java Display Console を使用すると、Windows NT、2000、98、または 95 システムの NetBackup Java (UNIX) インタフェースを実行して UNIX NetBackup BusinessServer マシンをリモートから管理できるようになります。Windows NT、2000、98、または 95 上にある Java インタフェースを使用して UNIX NetBackup BusinessServer をリモートから管理する必要がない場合は、この節を飛ばしてもかまいません。

システム要件

NetBackup-Java Display Console を実行するコンピュータには、256MB の物理メモリを用意することをお勧めします。

NetBackupのエージェントとオプションのインストール

インストール手順

1. インストールを実行するシステムに、NetBackup サーバーソフトウェアが入っている CD-ROM を挿入します。
 - ◆ CD-ROM ドライブの自動再生が有効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、NetBackup インストールプログラムが自動的に起動します。
 - ◆ 自動再生が無効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunI.exe プログラムを実行します。
2. [NetBackup - インストール]画面で、[NetBackup - Java Display Console for MS]の下にある [インストール] オプションをクリックします。[ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [次へ]をクリックし、プロンプトに従ってインストールを完了させます。
4. ソフトウェアをインストールしたら、ディスプレイコンソールの使い方について、以下のドキュメントを参照してください (このドキュメントはソフトウェアとともにインストールされます)。

インストールパス %Java%Readme.txt

デフォルトでは、インストールパスは C:%Program Files%VERITAS になります。

NetBackupのエージェントとオプションのインストール

初期インストールが完了したら、製品に付属している NetBackup ガイドの指示に従って、NetBackup のほかのエージェントとオプション (NetBackup for Oracle など) をインストールできます。

日常の管理

3

ここでは、NetBackup BusinessServer の設定の詳細と、NetBackup の日常的なタスクの実行方法について説明します。

- ◆ NetBackup アシスタント
- ◆ ストレージ デバイスの管理
- ◆ ボリュームの管理
- ◆ メディア (テープ) の管理
- ◆ カタログ バックアップの設定
- ◆ バックアップ ポリシー (クラス) の設定
- ◆ NetBackup 設定のテスト
- ◆ 自動電子メール通知の設定
- ◆ レポートの生成
- ◆ 別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバーの設定
- ◆ NetBackup クライアント インタフェースの使い方

NetBackup アシスタント

NetBackup アシスタント

NetBackup アシスタントを使用すると、ウィザードを簡単に起動できます。ウィザードでは、初期設定を行うことができます。

[起動時にアシスタントを常に表示] チェックボックスをクリアしない限り、NetBackup 管理インタフェースを起動するたびに NetBackup アシスタントが表示されます (17 ページの「NetBackup 管理インタフェースの起動」を参照)。



[NetBackup 管理] ウィンドウで [開始] メニューの [アシスタント] コマンドをクリックして NetBackup アシスタントを起動することもできます。



ストレージ デバイスの管理

ここでは、NetBackup にストレージ デバイスを設定する方法について説明します。

注意 Windows NT にストレージ デバイスが正しく設定されている必要があります。NetBackup BusinessServer が信頼できるレベルで動作するためには、オペレーティング システムにデバイスが正しくインストールおよび設定されていなければなりません (12 ページの「Windows NT/2000 へのストレージ デバイスの設定」を参照)。

NetBackup DataCenter ではメディア サーバーと呼ばれるリモート NetBackup サーバーに接続されたテープ ドライブを利用できます。NetBackup BusinessServer ではリモート メディア サーバーを使用できません。BusinessServer システムでデバイスを設定する場合は、以下のすべての用語が NetBackup サーバー コンピュータを指すことに注意してください。

- ◆ マスター サーバー
- ◆ メディア サーバー
- ◆ Media Manager ホスト
- ◆ ボリューム データベース ホスト
- ◆ デバイス ホスト
- ◆ ロボット制御ホスト


デバイスの管理

ここでは、NetBackup にデバイスを設定する方法について説明します。

デバイスの設定ウィザード

このウィザードを使用すると、バックアップに必要なデバイスを設定できます。

デバイスの設定ウィザードは、初期設定ウィザードまたは NetBackup アシスタントから起動できます。

デバイスの設定ウィザードは、[メディアとデバイス管理] ウィンドウから起動することもできます。 ボタンをクリックするか、または [アクション] メニューの [デバイスの設定ウィザード] をクリックしてください。

ストレージ デバイスの管理

新しいデバイスの追加

1. 使用するデバイスが、サポートされているデバイスのリストに掲載されていることを確認します (『NetBackup Release Notes』を参照)。

注 **BusinesServer** で使用できるドライブは最大 2 台までです。ドライブを追加する必要がある場合は、**NetBackup** の **DataCenter** バージョンにアップグレードすると、2 台以上のドライブおよびハイエンド ストレージ デバイスを使用できます。

2. **NetBackup** で使用するすべてのテープ デバイスにテープ デバイス ドライバがインストールされていることを確認します。テープ ドライバは、**VERITAS Tape Installer** アプリケーション([スタート]-[プログラム]-[VERITAS NetBackup]-[NetBackup Tape Installer]) からインストールできます。デバイスがオペレーティング システムに正しく設定されていることを確認します (12 ページの「Windows NT/2000 へのストレージ デバイスの設定」を参照)。
3. デバイスの設定ウィザードを起動します。ウィザードの 3 ページ目で、ソフトウェアによって検出されたデバイスのリストが表示されます。

シリアル化されていないデバイス: デバイスのシリアル化は、ウィザードがデバイスのシリアル番号を識別し、その番号をロボティック ライブラリから返されるシリアル番号の情報と関連させるためのファームウェア機能です。ドライブのシリアル番号を識別できない場合またはロボティック ライブラリからドライブのシリアル番号が返されない場合は、ウィザードでデバイスを自動的に設定することはできません。

シリアル化されていないデバイスについて参照する場合は、**?** をクリックしてください。この問題を解決する方法は、「デバイスシリアル化トラブルシューティング」というトピックで説明されています。

デバイスの削除

1. デバイスからメディアを取り外し、デバイスの接続を物理的に解除します。
2. [ストレージ ユニット管理]ユーティリティを使用して、デバイスのストレージ ユニットの削除します。
3. デバイスの設定ウィザードを実行します。このウィザードによって変更が認識され、設定からデバイスが削除されます。[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して、デバイスを手動で削除することもできます。

[メディアとデバイス管理]ユーティリティ

[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ ドライブ、ロボティック ライブラリ、ボリューム、ボリューム プール、ボリューム グループなどの追加、変更、削除。ドライブとライブラリを追加する場合は、ウィザードを使用する方が簡単です。
- ◆ ロボティック ライブラリのテープのインベントリ。
- ◆ ロボティック ライブラリのバーコード ルールの定義。

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理]ウィンドウで[メディアとデバイス管理]アイコンをクリックします。[メディアとデバイス管理]ウィンドウが表示されます。



注 このユーティリティの詳細については、『NetBackup Business Server Media Manager System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。バックアップに使用する各ストレージ デバイスには、対応するストレージユニットが必要です。[アクション]メニューの[新規作成]オプションを使用してデバイスを手動で追加する場合は、対応するストレージユニットも手動で追加します。デバイスの設定ウィザードを使用してデバイスを追加する場合は、ストレージユニットが自動的に作成されます。同様に、デバイスを削除する場合は、対応するストレージユニットを削除するか、またはそのユニット内の使用可能なドライブ数を減らします。詳細については、を参照してください。

ストレージ デバイスの管理

ストレージ ユニットの管理

5 ページの「ストレージ ユニット」で説明したように、ストレージ ユニットは、バックアップ データが保存されるストレージ デバイスのコレクションです。たとえば、ストレージ ユニットは、1 台のロボットと最大 2 台のドライブまたは 2 台のスタンドアロン テープドライブで構成されます。スタンドアロンドライブは、ロボットに含まれない単独のドライブです。

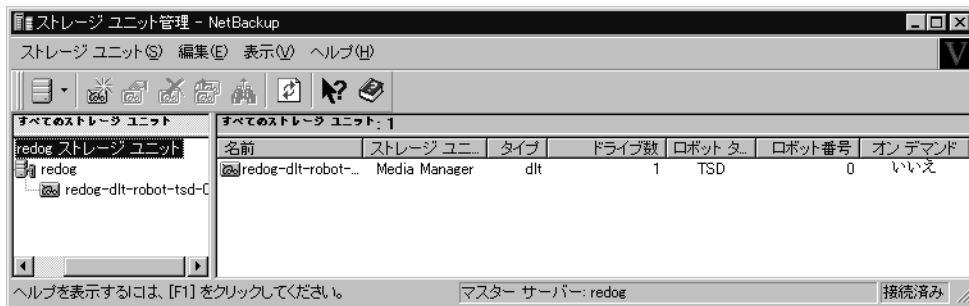
バックアップに使用する各ストレージ デバイスは、特定のストレージ ユニットに属する必要があります。

[ストレージ ユニット管理]ユーティリティ

このユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ 接続されているストレージ デバイスに対応するストレージ ユニットの追加
- ◆ ディスク ストレージ ユニットの追加
- ◆ ストレージ ユニットの削除
- ◆ マルチプレキシングの設定やドライブ数の変更など、ストレージ ユニットの属性の変更

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [ストレージ ユニット管理] アイコンをクリックします。[ストレージ ユニット管理] ウィンドウが表示されます。



接続されているデバイスに対応するストレージ ユニットの追加

デバイスの設定ウィザードを使用してストレージ デバイスを追加した場合は、対応するストレージ ユニットが自動的に作成されます。[メディアとデバイス管理] ユーティリティを使用してストレージ デバイスを追加した場合は、[ストレージ ユニット管理] ユーティリティを使用してデバイスに対応するストレージ ユニットを手動で追加する必要があります。

ディスク ストレージ ユニットの追加

ディスク ストレージ ユニットの作成するには、[ストレージ ユニット管理] ユーティリティを使用します。作成するストレージ ユニットに対してフォルダを指定する必要があります。このフォルダに、作成したストレージ ユニットを使用するバックアップのバックアップ データが保存されます。

注 通常、ディスク ストレージ ユニットはテスト目的だけに使用されます。バックアップでディスクがすぐに一杯になることがあるためです。ディスク ストレージ ユニットに対しては、ディスクが一杯にならないようなバックアップ クラスを割り当てます。

ディスク ストレージ ユニットに対しては、「オンデマンドのみ」機能を使用することをお勧めします。この機能を使用すると、ストレージ ユニットに送られるバックアップを指定し、ディスクに送られるデータの量を制御することができます。

ストレージ ユニットの属性

各属性について以下に説明します。

- ◆ **オンデマンドのみ** : クラスまたはスケジュールから明示的に要求されたときにストレージ ユニットが使用可能になります。すべてのクラスまたはスケジュールに対してユニットを使用可能にするには、このチェックボックスをクリアします。すべてのストレージ ユニットの [オンデマンドのみ] に設定した場合は、設定するクラスまたはスケジュールごとにストレージ ユニットの指定する必要があります。
- ◆ **バックアップ用の最大並行ドライブ数**: バックアップに使用されるストレージ ユニット内のドライブ数を指定できます。
 - ◆ ストレージ ユニット内のスタンドアロン テープ ドライブの数を入力します。同一のストレージ ユニットに属するすべてのテープ ドライブは、同じタイプ (TL8 や DLT など) でなければなりません。
または
 - ◆ ストレージ ユニット内のロボットにインストールされ、NetBackup サーバーに接続されているテープ ドライブの数を入力します。

NetBackup BusinessServer は、最大 2 台のドライブをサポートしています。たとえば、2 台のドライブがインストールされたロボット、または 1 台のスタンドアロンドライブと 1 台のドライブがインストールされたロボットを使用できます。

同じタイプに属する 2 台のスタンドアロンドライブがあるときに、このボックスに「1」を指定したと仮定します。この場合は、どちらのドライブも NetBackup で使用できますが、バックアップに使用できるドライブは 1 台だけです。もう一方のドライブは、リストアやバックアップ以外の操作 (バックアップのインポート、確認、複製など) に使用します。

ストレージ デバイスの管理

- ◆ **ドライブごとの最大マルチプレックス回数** : NetBackup からストレージ ユニット内の単一のドライブに送られるバックアップの最大数を指定できます。NetBackup BusinessServer に対しては、1 ~ 8 の値を指定します。デフォルトの 1 を指定すると、マルチプレキシングが無効になり、各ドライブに一度に送ることができるバックアップ ジョブは 1 つだけになります。1 以外の値を指定すると、1 台以上のクライアントから複数のバックアップが一度に単一のドライブに送られ、バックアップはメディア上でマルチプレックス (インタリーブ) されます。マルチプレキシングの詳細については、『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

[ストレージ ユニットの追加/変更] ダイアログ ボックスに表示されるストレージ ユニットのほかの属性については、オンライン ヘルプのトピックを参照してください。

バックアップ ポリシーへのストレージ ユニットの割り当て

最初にバックアップ ポリシーを作成するときは、[オンデマンドのみ] に設定されていない使用可能なストレージ ユニットが使用されます。33 ページの「ストレージ ユニットの属性」を参照してください。バックアップ ポリシーによってバックアップ データに使用するストレージ ユニートを指定するには、[バックアップ ポリシー管理] ユーティリティを使用します。[属性] ダイアログ ボックスで、[クラス ストレージ ユニート] フィールドに指定するストレージ ユニート名を入力します。

クラス内のスケジュールごとに特定のストレージ ユニートを指定することもできます。スケジュールに対してストレージ ユニートを指定すると、その指定は [属性] ダイアログ ボックスの [クラス ストレージ ユニート] フィールドの設定より優先されます。たとえば、すべてのフルバックアップとインクリメンタルバックアップを1つのストレージ ユニートに送り、すべてのユーザーバックアップを別のストレージ ユニートに送ることができます。

デバイスの監視

[デバイス モニタ] ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ テープ ドライブのステータスの表示
- ◆ テープ ドライブのステータスの変更
- ◆ バックアップまたはリストアを開始するためのドライブへのテープ割り当て

たとえば、このユーティリティは、ドライブをリセットしたり、ドライブをアップ/ダウン状態に設定する際に使用します。

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [デバイス モニタ] アイコンをクリックします。[デバイス モニタ] ウィンドウが表示されます。

ストレージ デバイスの管理

[デバイス モニタ] ウィンドウには、各ドライブの現在のステータスが表示されます。このウィンドウで、各ドライブの状態を簡単に変更できます。たとえば、ドライブをダウンに設定して **Media Manager** によって使用されないようにしたり、ドライブをリセットしてハング状態をクリアすることができます。ドライブにリクエストが自動的に割り当てられない場合は、手動で割り当てることもできます。

ボリュームの管理

ここでは、NetBackup のボリュームを管理する方法について説明します。ボリュームは、Media Manager が使用するためのメディア ID などの属性が割り当てられたリムーバブルメディアです。

NetBackup を最初にインストールするときは、ウィザードを使用することをお勧めします。以後は、[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して新しいボリュームを定義します。このユーティリティは柔軟性に優れ、より高度なオプションを利用できます (37 ページの「[メディアとデバイス管理]ユーティリティ」を参照)。

ボリュームの設定ウィザード

このウィザードでは、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームを定義できます。このウィザードを使用すると、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームを定義し、ロボットのインベントリを開始できます。ロボット内に新しいメディアが見つかる、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームが自動的に定義されます。

ボリュームの設定ウィザードは、初期設定ウィザードまたは NetBackup アシスタントから起動できます。

新しいボリュームの定義

▼ スタンドアロンドライブで使用する場合

1. 前の節の説明に従って、スタンドアロンドライブが正しく設定されていることを確認します。
2. ボリュームの設定ウィザードを起動します。
3. 2 ページ目に、サーバーに設定されているロボット またはスタンドアロンドライブのタイプがツリービューとして表示されます。必要なスタンドアロンドライブのタイプを選択し、[次へ]をクリックします。
4. 定義する新しいボリュームの数を指定し、[次へ]をクリックします。

▼ 新しいロボティック ボリュームの定義

1. 前の節の説明に従って、ロボットが正しく設定されていることを確認します。
2. ロボットに新しいメディアを挿入します。
3. ボリュームの設定ウィザードを起動します。
4. 2 ページ目に、サーバーに設定されているロボットまたはスタンドアロンドライブのタイプがツリービューとして表示されます。ロボットを選択し、[次へ]をクリックします。

5. 3ページ目に表示される指示をよく読み、その指示に従います。[次へ]をクリックすると、ロボットのインベントリが開始されます。インベントリ中に新しいメディアが見つかったら、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームが自動的に定義されます。
6. インベントリの結果は、4ページ目に表示されます。

[メディアとデバイス管理]ユーティリティ

[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ ロボティック ライブラリのテープのインベントリ。以下のインベントリ操作から選択できます。
 - a. ロボットの内容を確認し、各スロットのメディアのメディア ID をレポートします。
 - b. 現在のロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボット内でボリュームが物理的に移動されているかどうかを確認します。
 - c. ロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボットの現在の内容に合わせてボリューム データベースを更新するために必要な変更をプレビューします。
 - d. ロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボットの現在の内容に合わせてボリューム データベースを更新するために必要な変更を行います。この操作を行うと、新しいボリュームが定義される場合があります。
- ◆ ボリュームを手動で追加するために必要なメディア ID などの属性の指定。
- ◆ ボリュームの変更または削除。

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [メディアとデバイス管理] アイコンをクリックします。[メディアとデバイス管理] ウィンドウが表示されます。

このユーティリティの詳細については、『NetBackup Business Server System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

メディア（テープ）の管理

メディア（テープ）の管理

ここでは、NetBackup 管理者が行うテープの管理について説明します。

注 DataCenter バージョンの NetBackup では、各種のリムーバブル メディアを使用できますが、BusinessServer で使用できるのはテープドライブだけです。したがって、BusinessServer では、メディア、テープ、およびボリュームのすべてがテープを意味します。

カタログ バックアップ メディア（テープ）の管理

ディザスタリカバリ手順を簡略化するために、バックアップ ポリシーで定義されたレギュラー バックアップ用のテープにはカタログ バックアップは書き込まれません。また、カタログ バックアップ用のテープにはレギュラー バックアップは書き込まれません。したがって、カタログ バックアップ用のテープを管理する場合は、以下の点を考慮する必要があります。

通常、カタログをバックアップする場合は、自動カタログ バックアップのスケジュールを設定し、そのカタログ バックアップをテープに送る方法が最も安全です。

カタログのバックアップは毎回同じテープに送ることも、2本の異なるテープに交互に送ることもできます。2本のテープを使用する場合は、1本目のテープが最初のバックアップに使用され、2本目のテープが2番目のバックアップに使用されます。以後、交互に使用されます。

カタログ バックアップ用のテープが磨耗しないように、また、データを保護するために、カタログ バックアップ用のテープは定期的に取り替えてください。新しいテープに取り替えるときは、最新のカタログ バックアップ テープを安全な場所（オフサイトの保存場所など）に保管します。

カタログ バックアップ用の新しいテープの割り当て

カタログをテープにバックアップする前に、以下の操作が必要です。

1. Media Manager の設定にボリュームを追加します。
 - ❖ [メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して新しいボリュームを追加するには、[アクション]メニューで以下のいずれかを選択します。
 - ◆ [ロボットのイベントリ]。次に、[ボリューム設定の更新]をクリックします。
 - ◆ [新規作成]。次に、[ボリューム]をクリックします。
 - ❖ ボリュームの設定ウィザードを使用して新しいボリュームを追加するには、以下の操作を行います。
 - ◆ [NetBackup 管理]ウィンドウで、[開始]をクリックし、[アシスタント]をクリックします。次に [ボリュームの設定] をクリックします。

2. カタログ バックアップの設定にボリュームを割り当てます。

この操作を最も簡単に行うには、カタログ バックアップの設定ウィザードを実行し、ボリュームのメディア ID を指定します。詳細については、43 ページの「カタログ バックアップの設定」を参照してください。
3. カタログ バックアップに使用するメディア ID を記録します。各テープに物理ラベルを貼り付け、メディア ID と NetBackup カタログ バックアップ テープであることを記入します。問題が発生し、カタログをリストアすることになった場合は、最新のカタログ バックアップ テープのメディア ID が必要となります。

自動カタログ バックアップ

- ◆ ロボティック ライブラリまたはスタッカにバックアップする場合

ロボティック ライブラリまたはスタッカを使用してカタログ バックアップとレギュラーバックアップを処理する場合は、レギュラーバックアップの各セッション後にカタログ バックアップが自動的に実行されるように設定します。カタログ バックアップ テープの交換は、ストレージデバイスによって自動的に行われます。
 - ◆ 専用のスタンドアロン テープ ドライブにバックアップする場合

ロボティック デバイスはないが、別のスタンドアロン テープ ドライブがある場合は、そのドライブをカタログ バックアップ専用にすると、テープの交換回数を最小限に抑えることができます。
 - ◆ スタンドアロン テープ ドライブにバックアップする場合
 - 1 台のスタンドアロン テープ ドライブを使用して、カタログ バックアップとレギュラーバックアップの両方を行う場合は、以下に説明するように、レギュラーバックアップの完了後にカタログ バックアップ用のテープに交換します。以後も、交互に取り替えます。
- ▼ スタンドアロン テープ ドライブを使用してカタログを自動的にバックアップするには

ここでは、1 台のスタンドアロン ドライブだけを使用して自動カタログ バックアップを行う場合に必要な物理手順について説明します。以下の手順は、レギュラー バックアップの実行がスケジュールされている日に毎回実行します。

1. レギュラーバックアップに使用するスタンドアロン テープドライブを準備します。
 - ❖ スタンドアロン ドライブにテープを挿入します。

スケジュールされたレギュラーバックアップの実行時には、まずバックアップに必要なテープがスタンドアロン ドライブに入っているかどうかを確認されます。

レギュラーバックアップ用のテープが見つかると、バックアップが続行されます。ラベルのない空のテープが見つかると、そのテープに新しいメディア ID が割り当てられ、ラベルが設定され、バックアップが続行されます。

メディア（テープ）の管理

レギュラーバックアップ用のテープが見つからない場合は、特定のテープに対するマウント要求が発行されます。スタンドアロンドライブにテープがロードされ、マウント要求が満たされるまで、バックアップは停止します。マウント要求は、[デバイスマニタ]ユーティリティに表示されます。ドライブにテープを挿入し、[デバイスマニタ]ユーティリティを使用してマウント要求を割り当てます。

2. カタログバックアップに使用するスタンドアロンテープドライブを準備します。
 - a. スケジュールされたレギュラーバックアップが正常に終了すると、カタログバックアップ用のテープのマウント要求が発行されます。マウント要求は、[デバイスマニタ]ユーティリティに表示されます。

スケジュールされたレギュラーバックアップが正常に終了しなかった場合は、その問題を解決する必要があります。スケジュールされた次のバックアップセッションが正常に終了すると、カタログバックアップ用のテープのマウント要求が発行されます。
 - b. レギュラーバックアップ用のテープを取り外し、安全な場所に保管します。
 - c. カタログバックアップ用のテープをスタンドアロンドライブに挿入します。

通常、マウント要求は自動的に割り当てられます。
 - d. マウント要求が満たされると、カタログバックアップが開始されます。
3. スケジュールされたレギュラーバックアップに使用するスタンドアロンテープドライブを準備します。
 - ◆ カタログバックアップが完了したら、カタログバックアップ用のテープをドライブから取り外し、安全な場所に保管します。

手動カタログバックアップ（スタンドアロンテープドライブ）

必要に応じて、カタログバックアップを手動でのみ開始できるように設定することができます。スタンドアロンドライブをレギュラーバックアップとカタログバックアップの両方に使用している場合は、カタログバックアップを実行する前にカタログバックアップ用のテープを挿入し、終了後に取り外す必要があります。レギュラーバックアップのセッションが完了するたびにカタログバックアップ用のテープに取り替えないと、カタログバックアップは自動的に実行されません。この場合は、カタログバックアップを手動で実行する必要があります。

注 ロボティックライブラリを使用している場合は、カタログバックアップが自動でも開始されるように設定してください。カタログバックアップを開始し忘れると、障害の発生時のリカバリ手順が複雑になります。

▼ カタログを手動でバックアップするには

カタログを手動でバックアップする方法について以下に説明します。

1. スケジュールされたレギュラー バックアップに使用するスタンドアロン テープ ドライブを準備します。この手順は、「自動カタログ バックアップ」の手順 1 と同じです。
2. カタログ バックアップの準備をします。
 - a. レギュラーバックアップ用のテープを取り外します。
 - b. カタログ バックアップ用のテープを挿入します。
3. カタログ バックアップを実行します。
 - a. [バックアップ ポリシー管理] ユーティリティを開きます。[クラス] メニューの [NetBackup カタログのバックアップ] をクリックします。
 - b. カタログ バックアップが完了したら、カタログ バックアップ用のテープをドライブから取り外し、安全な場所に保管します。

Media Manager の設定へのポリシー（テープ）の追加

ここでは、Media Manager の設定にテープを追加する方法について簡単に説明します。詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - Windows NT/2000』でポリシーに関する情報を参照してください。

Media Manager の設定にテープを追加する方法は、以下に示すように、テープの使用方法によって異なります。

▼ ロボティック ライブラリのテープに対するポリシーの追加

1. ロボティック ライブラリにテープを挿入します。
2. ポリシーの設定ウィザードを起動します。

または

ポリシー設定の更新手順を実行します。詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administration Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

更新中に、新しいテープには Media Manager によってメディア ID などの属性が自動的に割り当てられます。

メディア（テープ）の管理

▼ スタンドアロンドライブのテープに対するボリュームの追加

スタンドアロンドライブには、テープを手動でロードする必要があります。

1. ラベルのない空のテープをドライブに挿入します。
2. ボリュームの設定ウィザードを起動します。

または

次のバックアップで同じタイプのテープが必要になった場合は、そのテープにはメディア ID が自動的に割り当てられ、ラベルが設定され、バックアップに使用されます。NetBackup では、この方法で Media Manager の設定にテープが追加されます。

▼ カタログ バックアップ用のテープに対するボリュームの追加

カタログ バックアップ用のテープを使用する前に、そのテープを Media Manager の設定に追加し、カタログ バックアップ用として割り当てる必要があります。テープの割り当てには、カタログ バックアップ ウィザードを使用できます。

カタログ バックアップの設定

ここでは、カタログのバックアップ（カタログ バックアップ）を設定する方法について説明します。カタログ バックアップの詳細については、2 ページの「バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて」を参照してください。

- ◆ カatalog バックアップに使用するメディアを選択します。
- ◆ カatalog バックアップの設定ウィザードを使用してバックアップのスケジュールを設定します (45 ページの「NetBackup カatalog バックアップ ウィザードの使い方」を参照)。

カタログ バックアップに必要なメディアの選択

使用できるストレージ デバイスごとに、以下に示す方法でカタログのバックアップを行うことをお勧めします。

1. ロボット、テープ スタッカなどの自動デバイスを使用している場合は、自動デバイスにカタログ バックアップを保存します。バックアップの開始時に、ロボットまたはテープ スタッカ内のボリュームは NetBackup によって自動的に検出されるため、これらの自動デバイスを使用すると簡単にカタログをバックアップできます。
2. ロボットまたはテープ スタッカはないが、余分なスタンドアロン ストレージ デバイスがある場合は、そのデバイスをカタログ バックアップ専用割り当てます。
3. ロボットもテープ スタッカもなく、1 台のスタンドアロンドライブだけを使用する場合は、カタログ バックアップをハードディスクドライブに送る方法が便利です。カタログ バックアップを保存するハードディスクドライブと、カタログがあるハードディスクドライブは別でなければなりません。デフォルトでは、カタログは以下の場所に保存されます。したがって、この方法を使用する場合は、カタログ バックアップの保存先として以下の場所とは異なるドライブを指定します。

インストールパス %NetBackup%db

インストールパス %Volmgr%database

デフォルトでは、インストールパスは C:%Program Files%VERITAS になります。

カタログ バックアップの設定

注意 データを保護するための最も安全な方法は、カタログ バックアップを含むすべてのバックアップをリムーバブル メディアに保存し、そのメディアのフルセットを定期的にオフサイトの保存場所に移動することです。バックアップをディスクに書き込むだけでは、バックアップ対象のコンピュータとリスクを共有することになります。バックアップをディスクだけに保存した場合は、雷、洪水、火災などの自然災害によってオリジナル データとバックアップの両方が破損するおそれがあります。

カタログとカタログ バックアップが入ったディスクの両方が破損した場合は、ビジネス データのリカバリはより困難になります。ビジネス データのバックアップをテープに保存していても、カタログ バックアップを使用せずにリカバリする場合は、バックアップ テープのすべてのデータを手動でインポートしてカタログを再構築する必要があります。このプロセスには時間がかかるので、ほかの業務に支障が生じるおそれがあります。

4. ロボットもテープ スタッカもなく、1 台のスタンドアロン ドライブだけを使用する場合で、別のハードディスク ドライブに十分な空き領域がないときは、ビジネス データのバックアップと同じテープ ドライブにカタログをバックアップする必要があります。この場合は、カタログをバックアップするたびにドライブのテープを交換しなければなりません。テープの交換は不便ですが、NetBackup ではカタログ バックアップとレギュラー バックアップを同じテープに保存できないため、テープの交換が必要になります。

カタログ バックアップのスケジュールの選択

カタログ バックアップをロボット、テープ スタッカ、別のスタンドアロン テープ ドライブ、またはディスクに送る場合は、以下の各セッション後に、2つの自動バックアップのいずれかを選択します。

- ◆ スケジュールされたバックアップ、ユーザー バックアップ、または手動バックアップの各セッション後

または

- ◆ スケジュールされたバックアップの各セッション後

1 台のスタンドアロン テープ ドライブを使用してカタログとビジネス データの両方をバックアップする場合は、以下の方法のいずれかを選択します。NetBackup では、同じテープにカタログ バックアップとレギュラー バックアップの両方を保存できないため、どちらの方法でもテープを交換する必要があります。

- ◆ 1日または1晩に1つのバックアップ セッションだけを実行する場合は、[各スケジュール バックアップ セッション後] をクリックします。
- ◆ 1日または1晩に複数のバックアップ セッションを実行する場合は、[手動で開始する場合のみ] をクリックします。

1日1回または一連のバックアップ後に手動カタログ バックアップを実行します。

注意 カタログは頻繁にバックアップする必要があります。カタログ ファイルが失われると、最後のカタログ バックアップからディスクのクラッシュ時までのバックアップと設定の変更に関する情報が失われます。

NetBackup カタログ バックアップ ウィザードの使い方

このウィザードを使用すると、NetBackup カタログのバックアップ方法を指定できます。このウィザードは、NetBackup アシスタントから起動できます。

テープにバックアップしている場合は、カタログ バックアップ ウィザードを使用する前に、ストレージ デバイスとメディアを設定します。設定方法については、29 ページの「ストレージ デバイスの管理」を参照してください。NetBackup ボリューム プールに属するメディア ID で、レギュラー バックアップにまだ割り当てられていないものが1つまたは2つあることを確認します。

ヒント ウィザードで [カタログをバックアップする日時] というページが表示されたら、[詳細情報] ボタンをクリックすると表示されるテキストに指定されている基準に従って選択を行います。

カタログ バックアップのリストア方法

サーバーがクラッシュし、サーバー内のすべての情報が失われた場合は、『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』のディザスタリカバリに関する章で、カタログのリカバリ手順を参照してください。

バックアップ ポリシー（クラス）の設定

バックアップ ポリシー（クラス）の設定

NetBackup を使用してデータのレギュラーバックアップを実行するには、少なくとも 1 つのバックアップ ポリシーに適切なクライアント、ファイル リスト、およびスケジュールを設定する必要があります。詳細については、2 ページの「バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて」を参照してください。

注 バックアップ ポリシー（クラス）は、共通のバックアップ要件を持つ 1 ～ 4 台（Client Expansion Pack を使用した場合は最大 8 台）のリモート クライアントのグループに対して、レギュラーバックアップの方法を定義するパラメータのセットです。サーバーもクライアントとして指定できます。サーバーは、リモート クライアントの最大数である 4 台の中には含まれません。

バックアップ ポリシーを作成する前に、カタログ バックアップを設定します。設定方法については、43 ページの「カタログ バックアップの設定」を参照してください。

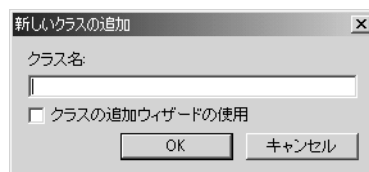
ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成

このウィザードを使用すると、NetBackup クライアントのバックアップ方法を指定できます。デフォルトの設定を使用すると、バックアップ ポリシーをすばやく簡単に作成できます。

クラスに使用できるすべての設定にアクセスするには、新しいクラスを作成するか、または既存のクラスを直接編集します。詳細については、以下の節で説明します。

バックアップ ポリシー ウィザードは、以下の 2 つの場所から起動できます。

- ◆ NetBackup アシスタント
 - [バックアップ ポリシーの作成] をクリックします。
- ◆ [バックアップ ポリシー管理 (クラス)] ユーティリティ
 - a. [NetBackup 管理] ウィンドウ (17 ページの「NetBackup 管理 インタフェースの起動」を参照) を開いて、[バックアップ ポリシー管理] アイコンをクリックします。[バックアップ ポリシー管理 (クラス)] ウィンドウが表示されます。
 - b. ツリーで、新しいクラスを追加するサーバーを選択します。
 - c. [クラス] メニューの [新しいクラス] をクリックします。以下の画面が表示されます。



バックアップ ポリシー (クラス) の設定

- d. ボックスに一意的なクラス名を入力します。

アルファベット (ASCII の A ~ Z/a ~ z)、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (_)、またはピリオド (.) の各文字を使用できます。マイナス記号は先頭文字としては使用できません。文字間にはスペースを挿入しません。

- e. [クラスの追加ウィザードの使用] チェックボックスを選択します。

- f. [OK] をクリックします。ウィザードが表示されます。

ウィザードを使用してクラスを作成したら、[バックアップ ポリシー管理] ユーティリティを使用してクラスの各設定を編集できます。このユーティリティを使用すると、クラスの以下の各設定を変更できます。

- ◆ クラス属性
- ◆ クライアント リスト
- ◆ ファイル リスト
- ◆ スケジュールとその属性

NetBackup 設定のテスト

NetBackup 設定のテスト

注意 レギュラー バックアップを実行する前にカタログ バックアップを設定します。カタログ バックアップを設定しておかないと、カタログの保存先のディスクで障害が発生した場合に、バックアップのリストアが困難になります。NetBackup の設定全体を最初からやり直すこととなります。カタログ バックアップの設定の詳細については、43 ページの「カタログ バックアップの設定」を参照してください。

初期設定ウィザードで、テスト バックアップを実行して設定をテストします。バックアップが終了すると、アクティビティ モニタが表示されます。デフォルトでは、このウィンドウの内容は 60 秒ごとに更新されます。自動更新によってテスト バックアップの行が表示されるまで待つか、またはテスト バックアップのエントリがリストに表示されるまで [更新] ボタンをクリックします。

テスト バックアップのエントリがリストに表示されたら、そのエントリをダブルクリックしてバックアップ ジョブに関する詳細を表示します。[ステータスの詳細] タブをクリックすると、ジョブのステータス出力が表示されます。[更新] ボタンをクリックすると、最新情報が表示されます。

NetBackup がマウント要求を待機中である場合は、[NetBackup 管理] ウィンドウで [デバイス モニタ] アイコンをクリックして [デバイス モニタ] ユーティリティを起動します。

[表示] メニューの [更新] をクリックしてアクティビティ モニタの画面を更新すると、テスト バックアップのステータスが表示されます。



自動電子メール通知の設定

一般的な通知の場合

スケジュールされたバックアップ、管理者指定の手動バックアップ、および NetBackup カタログ バックアップの通知を管理者が受け取るように設定するには、以下の手順に従います。カタログ バックアップの通知には、使用されたメディア ID が含まれます。

1. サーバーの [NetBackup 管理] ウィンドウで、[開始] メニューの [NetBackup の設定] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



2. [設定グループ] ペインでホストをクリックしてサーバーを選択します。
3. [ファイル] メニューの [プロパティ (読み取り / 書き込み)] をクリックします。
[マスター サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [グローバル NetBackup 属性] タブをクリックしてプロパティシートを開きます。
5. [NetBackup 管理者の E-mail アドレス] チェックボックスを選択します。
6. テキスト フィールドをクリックし、システム管理者の電子メール アドレスを入力します。
7. [OK] をクリックします。

注 電子メール通知が動作しない場合は、アドレスを指定するだけでなく、`インストールパス\NetBackup\bin\mail.cmd` スクリプトを設定する必要があります。指定した電子メール アドレス、件名、およびメッセージがスクリプトに渡されると通知が実行されます。スクリプトはスクリプトに指定された電子メールプログラムを使用して電子メールをユーザーに送信します。設定手順については、スクリプトのコメントを参照してください。

自動電子メール通知の設定

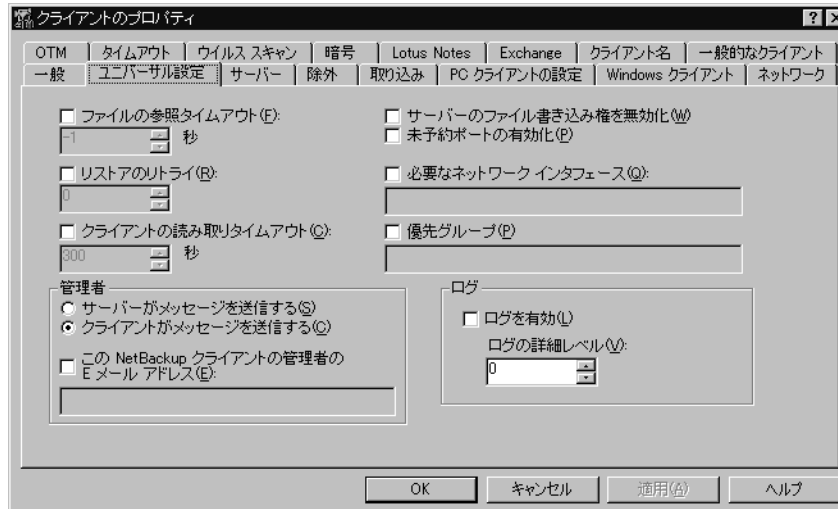
クライアント アクティビティの通知

特定のクライアントで実行されたスケジュールされたバックアップおよびユーザー指定のバックアップの通知を管理者が受け取るように設定することができます。

注 この手順は、Windows NT/2000 版の NetBackup 管理インタフェースから実行します。

1. サーバーの [NetBackup 管理] ウィンドウ (NT) で、[開始] メニューの [NetBackup の設定] をクリックします。
2. [設定 - NetBackup] ウィンドウの [設定グループ] ペインで、メニュー内を下に移動して [クライアント] アイコンを表示します。[クライアント] アイコンをクリックします。
3. [クライアント用の設定] ペインで、通知を受け取るクライアントを選択します。
4. [ファイル] メニューの [プロパティ (読み取り/書き込み)] をクリックして [クライアントのプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。

以下の画面が表示されます。



5. [クライアントのプロパティ] ダイアログ ボックスの [一般] タブで、[この NetBackup クライアントの管理者の E メール アドレス] チェックボックスを選択します。次に、テキスト ボックスにアドレスを入力します。

クライアントがメールを送信できない場合は、[サーバーがメッセージを送信する] チェックボックスを選択します。

6. [OK] をクリックします。

UNIX クライアントでのユーザー指定のアクティビティの通知

UNIX クライアントで実行されたユーザー指定のアクティビティに関する電子メール通知を送信するように NetBackup を設定することができます。

- ◆ ユーザーの `bp.conf` ファイルに電子メール アドレスが指定されている場合は、そのアドレスにユーザー指定の操作の成否に関するステータスが送信されます。ユーザーは、各自のホーム ディレクトリに自分の `bp.conf` ファイルを置くことができます。

USEMAIL エントリの例を以下に示します。

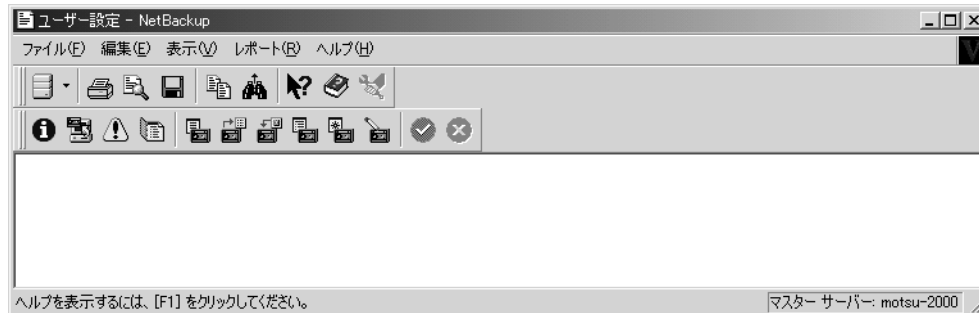
```
USEMAIL=jdoe@null.com
```








Windows NT/2000 クライアントには、対応するオプションがありません。

レポートの生成




レポートの生成

NetBackup には、バックアップ操作の確認、管理、およびトラブルシューティングに関する総合的なレポートのセットが用意されています。レポートを表示するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [レポート] アイコンをクリックします。[レポート] ウィンドウが表示されます。



レポート	アイコン	説明
バックアップのステータス		指定期間内に完了したバックアップのステータスとエラーに関する情報。
クライアントバックアップ		指定期間内に完了したバックアップに関する詳細情報。
バックアップに関する問題		指定期間内にサーバーによってログに記録された問題。この情報は、[すべてのログ エントリ] レポートの情報のサブセットです。
すべてのログ エントリ		指定期間内のすべてのログ エントリ。このレポートには、[問題] レポートと [メディア ログ] レポートの情報が含まれます。
メディア リスト		NetBackup メディア カタログの単一またはすべてのメディア ID に関する情報。このレポートは、ディスクストレージユニットには使用できません。
メディアの内容		メディアから直接読み取られたメディアの内容。このレポートには、個別のファイルではなく、単一のメディア ID 上にあるバックアップ ID が表示されます。このレポートは、ディスクストレージユニットには使用できません。
メディア上のイメージ		NetBackup ファイル カタログに記録されたメディアの内容。このオプションは、ディスクストレージユニットを含むすべての種類のストレージユニットに使用できます。

レポートの生成

レポート	アイコン	説明
メディア ログ		NetBackup エラー カタログに記録されたメディア エラー。この情報は、[すべてのログ エントリ]レポートの情報のサブセットです。
メディアのサマリ		有効期限日に基づいてグループ化されたアクティブ メディアと非アクティブ メディアのサマリ。このレポートには、メディアの有効期限日とリテンション レベル別のメディア数が表示されます。
書き込み済みメディア		指定期間内にバックアップに使用されたりムーバブル メディア。このレポートには、複製に使用されたメディアが表示されます。ただし、元のバックアップが指定期間の前に作成された場合に限りです。

注 レポートの内容より詳しい情報が必要な場合は、アクティビティの詳細ログを有効にすることができます。詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバーの設定

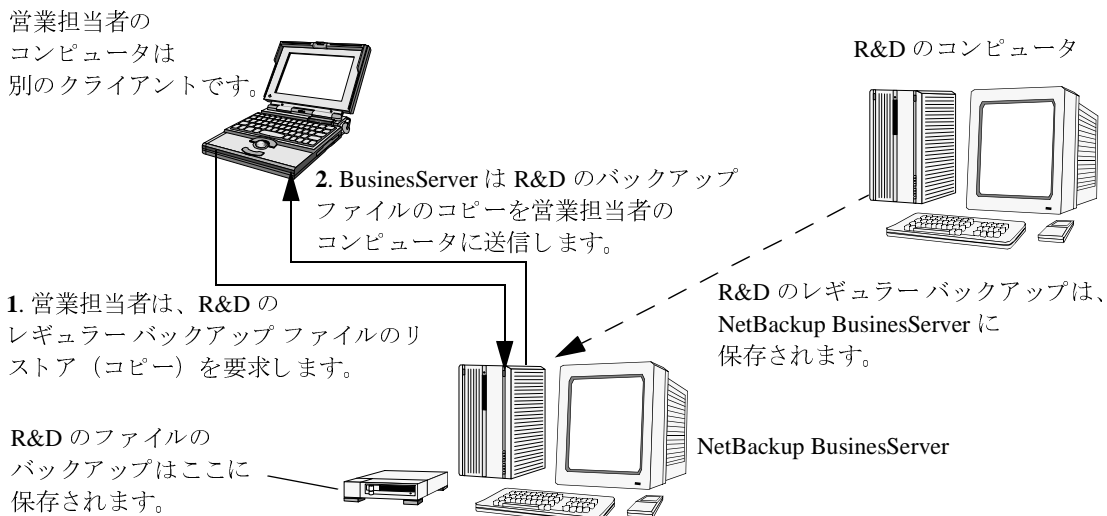
別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバーの設定

ファイルをバックアップした元のクライアントとは異なるクライアントにファイルをリストアする場合があります。バックアップ元でないクライアントを「別のクライアント」と呼び、このような操作を「別のクライアントへのリストア」と呼びます。

セキュリティ上の理由から、通常は別のクライアントへのリストアは禁止されています。ただし、NetBackup クライアントのユーザー インタフェースには、別のクライアントへのリストアを実行するためのオプションがあります。このオプションを使用できるように NetBackup サーバーが設定されている場合は、別のクライアントへのリストアを実行できます。この設定では、サーバーのインストールパス ¥NetBackup¥db¥altnames フォルダ (デフォルトでは、インストールパスは C:¥Program Files¥VERITAS) にファイルが追加されます。ファイルの詳細な設定手順については、『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

注意 インストールパス ¥NetBackupdb¥db¥altnames フォルダは、セキュリティ違反を起こすことがあります。バックアップ内のファイルをローカルに作成する権利があるユーザーは、ほかのクライアントのファイルを選択してリストアできるためです。

次の図は、別のクライアントにバックアップされたファイルのコピー（リストア）を NetBackup クライアントから要求する方法を示しています。この例では、営業担当者が NetBackup サーバーに対して R&D のファイルを営業担当者のコンピュータに送信することを要求しています。営業担当者のコンピュータが別のクライアントです。



NetBackup クライアント インタフェースの使い方

NetBackup BusinessServer の強力な機能の 1 つに、ユーザーがリモート NetBackup クライアントを通じて各自のローカル コンピュータのファイル、フォルダ、およびレジストリのバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行できることがあります。

Windows 95/98/2000/NT 4.0

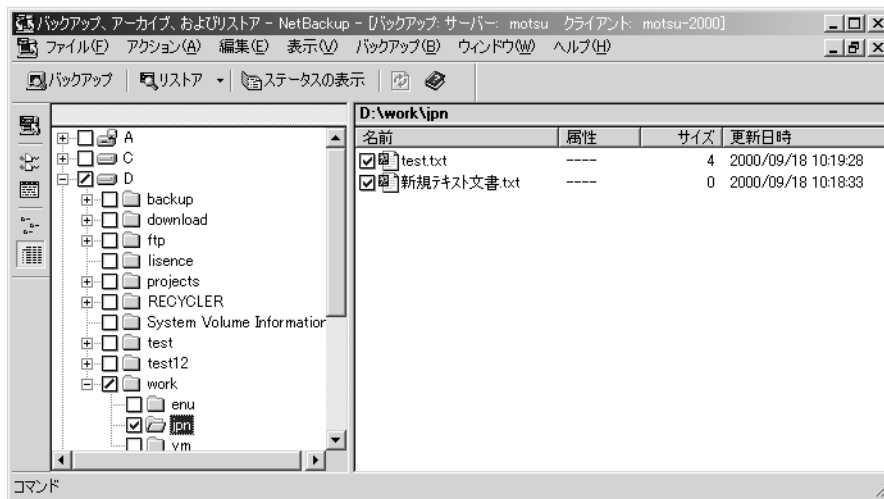
ここでは、NetBackup for Windows インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - Microsoft Windows』を参照してください。

インタフェースの起動方法

Windows の [スタート] メニューの [プログラム] をポイントします。次に、[VERITAS NetBackup] をポイントし、[NetBackup クライアント] をクリックします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。

バックアップ方法

1. [バックアップ] をクリックします。
2. 必要に応じて、ツリー内を下に移動し、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。バックアップする項目を指定するには、カーソルが手の形になったときに項目のチェックボックスをクリックしてチェック マークを付けます。




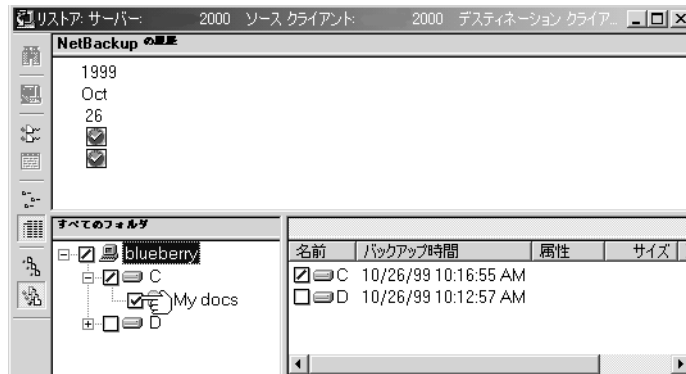
3. [バックアップ] メニューの [選択したファイルのバックアップの開始] をクリックします。

NetBackup クライアント インタフェースの使い方

4. [バックアップオプションの指定]ダイアログ ボックスで[バックアップの開始]をクリックします。
バックアップが開始されると、その進行状況を表示することができます。

リストア方法

1. リストア]  リストア ▼ の横にある下方向矢印をクリックし、[バックアップからリストア]を選択します。
2. 必要に応じて、ツリー内を下に移動し、リストアするファイルまたはフォルダを指定します。項目を指定するには、カーソルが手の形になったときに項目のチェックボックスをクリックしてチェック マークを付けます。



3. [リストア]メニューの[選択したファイルのリストアの開始]をクリックします。
4. [選択したファイルのリストア]ダイアログ ボックスの[リストアオプション]で、[既存のファイルの上書き]を選択します。
5. [リストアの開始] ボタンをクリックします。

NetWare Target

ここでは、NetBackup for Novell Netware - Target インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide Target Version - Novell NetWare』を参照してください。

インタフェースの起動方法

NetWare ファイル サーバーのコンソールから、`bp.nlm` をロードします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。

バックアップ方法

1. メイン メニューで、「**b**」（ユーザー指定のバックアップ）と入力します。
2. NetBackup のサーバー名とターゲット名が正しいかどうかを確認します。
3. 「**b**」（バックアップの開始）と入力します。
4. 「**y**」と入力してバックアップを開始します。

リストア方法

1. メイン メニューで、「**r**」（バックアップのリストア）と入力します。
2. [パス]、[開始日時]、[終了日時]、[マスターサーバー]、[クライアントの参照]、および [Target の参照] の各フィールドが正しいことを確認します。
3. 「**s**」と入力してバックアップ履歴を検索します。
4. リストアするファイルとディレクトリを選択し、「**o**」（OK）と入力します。
5. 「**r**」と入力してリストアを開始します。
6. プロンプトに従います。
 - a. 上書きするには、「**y**」と入力します。
 - b. プログレス ログに対しては、「**y**」と入力します。
 - c. サーバーにリストア要求を送るには、「**y**」と入力します。

NetBackup クライアント インタフェースの使い方

NetWare NonTarget

ここでは、NetBackup for Novell Netware - NonTarget インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide NonTarget Version - Novell NetWare』を参照してください。

インタフェースの起動方法

Windows の [スタート] メニューの [プログラム] をポイントします。次に、[VERITAS NetBackup] をポイントし、[NetBackup for NetWare] をクリックします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。

バックアップ方法

1. [アクション]メニューの[バックアップするファイルとフォルダの選択]をクリックします。
2. SDMR をダブルクリックします。
3. TSA をダブルクリックします。
4. ターゲットをダブルクリックします。
5. ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
6. [NetBackup Backup] ウィンドウで、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。
7. [バックアップ]メニューの[選択したファイルのバックアップの開始]をクリックします。
8. [バックアップオプションの指定]ダイアログ ボックスで[バックアップの開始]をクリックします。

リストア方法

1. [リストア]をクリックし、[アクション]メニューの[バックアップからリストア]をクリックします。
2. NetBackup リストア ウィンドウで、リストアするファイルまたはフォルダを指定します。
3. [リストア]メニューの[選択したファイルのリストアの開始]をクリックします。
4. ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
5. [選択したファイルのリストア]ダイアログ ボックスで、[既存のファイルの上書き]を選択します。
6. [選択したファイルのリストア]ダイアログ ボックスで、[リストアの開始]をクリックします。

Macintosh

ここでは、NetBackup for Macintosh インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - Macintosh』を参照してください。

インタフェースの起動方法

1. Macintosh のハードディスク アイコンをダブルクリックします。
2. [NetBackup Browser] フォルダの [NetBackup] アプリケーション アイコンをダブルクリックします。

バックアップ方法

1. [バックアップ] をクリックします。
2. [バックアップまたはアーカイブするファイルの選択] ウィンドウで、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。
3. [バックアップの開始] をクリックします。
4. [選択したファイルのバックアップの開始] を選択します。
5. [バックアップの開始] をクリックします。

リストア方法

1. [リストア] をクリックします。
2. リストアするファイルまたはフォルダを指定します。
3. [リストアの開始] をクリックします。
4. [上書き保存] を選択します。
5. [リストアの開始] をクリックします。

NetBackup クライアント インタフェースの使い方

OS/2 Warp

NetBackup for OS/2 Warp には、GUI またはコマンドライン インタフェースがありません。OS/2 Warp コンソールからユーザー レベルの操作を行うことはできません。操作はすべてサーバーから開始します。

UNIX

ここでは、Java ユーザー インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - UNIX』を参照してください。

注 このインタフェースは、サポートされている Solaris クライアントと HP クライアントだけで使用できます。ほかのタイプの UNIX クライアントについては、『NetBackup User's Guide - UNIX』で xbp インタフェースの使い方を参照してください。

インタフェースの起動方法

1. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] インタフェースを起動する UNIX NetBackup コンピュータにログインします。

2. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] インタフェースを起動するには、以下のコマンドを実行します。

```
/usr/openv/netbackup/bin/jbpSA &
```

コマンドの使い方を参照する場合は、「**jbpSA -h**」と入力します。

[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. バックアップ、アーカイブ、またはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

そのクライアントでの有効なユーザー アカウントと、そのクライアントへのアクセス権が必要です。

4. ユーザー名を指定します。

◆ UNIX クライアントの場合は、クライアント名を入力します。

◆ Windows クライアントの場合は、**domain\username** という形式で、ドメインとクライアント名を入力します。たとえば、以下のように入力します。

```
ourcompany\gla
```

5. パスワードを入力します。

6. [ログイン] をクリックします。

[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。

バックアップ方法

1. [ファイルのバックアップ] タブをクリックします。
2. バックアップするファイルを指定します。
3. [バックアップ] をクリックしてバックアップ操作を開始します。
4. [ファイルのバックアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. バックアップまたはアーカイブにキーワード フレーズを対応付けるには、[このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワードフレーズ] ボックスにキーワード フレーズを入力します。キーワード フレーズが対応付けられたバックアップまたはアーカイブをリストアする際は、そのキーワード フレーズを使用して簡単に検索できます。
 - ◆ バックアップ後にバックアップ元のファイルを削除する場合は、[ファイルのアーカイブ] を選択します。
 - ◆ バックアップ対象のファイルのリストから特定のファイルを削除するには、そのファイルを選択し、[リストから削除] をクリックします。
6. [バックアップの開始] をクリックしてバックアップ操作を開始します。
7. NetBackup の操作が完了するまでに、数分かかる場合があります。バックアップ操作のステータスを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックして [タスク処理] タブを開きます。

リストア方法

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. [バックアップ タイプ] ドロップダウン リストから、実行するリストアの種類を選択します。
3. リストアするフォルダまたはファイルを選択します。
4. [リストア] をクリックします。
5. [リストアの開始] をクリックしてリストア操作を開始します。
6. リストア操作のステータスを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックして [タスク処理] タブを開きます。

NetBackup クライアント インタフェースの使い方

トラブルシューティング

4

ここでは、NetBackupBusinessServer のトラブルシューティング手順について説明します。NetBackup トラブルシューティング ウィザードについても紹介します。エラーコードと問題の解決策の詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

トラブルシューティング手順

トラブルシューティング手順

1. バックアップまたはリストアが失敗した場合は、トラブルシューティング ウィザードまたは『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』で、問題の発生源（クライアント、サーバー、ネットワークなど）を特定します。このウィザードの使い方については、65 ページの「トラブルシューティング ウィザード」を参照してください。

『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』では、このウィザードに含まれていない追加情報を参照できます。

2. NetBackupによってサポートされている設定が使用されているかどうかを確認します。サーバーとクライアントのプラットフォームおよび OS のバージョンを確認します。ロボットとドライブのファームウェアレベルも確認します。
3. NetBackup クライアントおよびサーバーのパッチ レベルが最新であるかどうかを確認します。VERITAS のサポート サイトで、現在の問題に関するパッチがあるかどうかを確認します。サポート情報は、以下のサイトで入手できます。

www.veritas.com

4. 問題が解決されない場合は、VERITAS のサポート サイトで、問題の解決に役立つと思われる TechNote を検索します。TechNote は、以下のサイトにあります。

seer.support.veritas.com/srchengine/techsearch.asp?ddProduct=NetBackup

5. 上記の方法でも問題が解決しない場合は、以下の VERITAS カスタマサポートまでお問い合わせください。

日本: (03) 3509-9210

米国およびカナダ: 1-800-342-0652

その他の地域: +1-650-335-8555

トラブルシューティング ウィザード


このウィザードを使用すると、NetBackup BusinessServer のトラブルシューティングを行うことができます。NetBackup のトラブルシューティングの詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

[アクティビティ モニタ] ウィンドウからのアクセス

1. [NetBackup 管理] ウィンドウで [アクティビティ モニタ] アイコンをクリックします。
2. [ジョブ] タブをクリックします。
3. [ステータス] カラムの値が 0 以外の行を選択します (次の図を参照)。

ジョブ ID	タイプ	状態	ステータス	クラス	スケジュール	クライアント	メディア サー...
5	リストア	終了	150			RED0G	
4	バックアップ	終了	0	test_backup	User	redog	redog
3	バックアップ	終了	0	test_bk2	Full	redog	redog
2	バックアップ	終了	0	test_backup	Full	redog	redog


ヘルプを表示するには、[F1] をクリックしてください。 キューに追加: 0 アクティブ: 0 キューに再追加: 0 終了: 4 合計: 4 マスター サーバー: redog

4. 以下の手順でトラブルシューティング ウィザードを起動します。
 - ◆ ツールバーのトラブルシューティングのアイコン  をクリックします。
 - ◆ [ヘルプ] メニューの [トラブルシューティング] をクリックします。
 - ◆ 選択した行をマウスの右ボタンでクリックし、ポップアップ メニューの [トラブルシューティング] を選択します。
 - ◆ [表示] メニューの [詳細] を選択します。[ステータスの詳細] タブをクリックし、次に [トラブルシューティング] をクリックします。

[レポート] ウィンドウからのアクセス

1. [NetBackup 管理] ウィンドウで [レポート] アイコンをクリックします。
2. [ファイル] メニューの [新しいレポート] を選択します。[レポートの設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. [レポートのタイプ] ボックスで、[バックアップのステータス]、[バックアップに関する問題]、または [すべてのログ エントリ] が選択されていることを確認し、[実行] をクリックします。
4. レポートのウィンドウで、[ステータス] カラムの値が 0 以外の行を選択します。

トラブルシューティング ウィザード

- 以下の手順でトラブルシューティング ウィザードを起動します。
 - ◆ ツールバーのトラブルシューティングのアイコン  をクリックします。
 - ◆ [ヘルプ]メニューの[トラブルシューティング]をクリックします。
 - ◆ マウスの右ボタンでクリックし、[トラブルシューティング]を選択します。トラブルシューティング ウィザードが開きます。

トラブルシューティング ウィザードの使い方

トラブルシューティング ウィザードでは、ジョブの失敗の原因となった問題を診断し、解決します。問題を解決したら、ジョブを呼び出したクラスによる再試行を待つか、またはクラスのバックアップを手動で直ちに開始します。詳細については、48 ページの「NetBackup 設定のテスト」を参照してください。

トラブルシューティング ウィザードの初期画面 (次の図を参照) のチェックボックスを選択すると、Windows NT/2000 ではなく UNIX のエラー コードの説明が表示されます。デフォルトでは Windows NT/2000 に設定されています。問題が UNIX コンピュータで発生していると思われる場合は、このチェックボックスを選択します。



関連マニュアル

A

ここでは、NetBackup のテクニカル マニュアルについて説明します。

各 NetBackup 製品の CD-ROM には、PDF (Adobe Portable Document Format) の関連マニュアルが含まれています。PDF ファイルは、CD-ROM のルート ディレクトリまたは Docs ディレクトリにあります。

マニュアルを PDF で参照するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。Adobe Acrobat Reader は、Adobe Web サイト (www.adobe.com) からダウンロードできます。ただし、VERITAS では、Acrobat Reader のインストールや使用に関して一切の責任を負いません。

リリース ノート

『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報 (サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項など) が掲載されています。

入門ガイド

『NetBackup BusinessServer Getting Started Guide - Windows NT/2000』

Windows NT/2000 NetBackup BusinessServer ソフトウェアをインストールおよび実行する方法が説明されています。

入門カード

- ◆ 『NetBackup FastBackup - Getting Started Card』

NetBackup FastBackup のインストール要件と手順が掲載されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer Getting Started Card - Windows NT/2000』

Windows NT/2000 サーバーの NetBackup BusinessServer のインストール要件と手順が掲載されています。

インストールガイド

インストールガイド

- ◆ 『NetBackup Installation Guide - PC Clients』
NetBackup PC クライアント ソフトウェアをインストールする方法が説明されています。PC クライアントとは、Windows 2000、Windows NT、Windows 95、Windows 98、Macintosh、OS/2 Warp、および Novell NetWare です。
- ◆ 『NetBackup DataCenter Installation Guide - NT/2000』
NetBackup DataCenter ソフトウェアをインストールする方法が説明されています。

システム管理者ガイド - 基本製品

- ◆ 『NetBackup DataCenter System Administrator's Guide - Windows NT/2000 Server』
Windows NT/2000 サーバー システムで NetBackup DataCenter を設定し、管理する方法が説明されています。
- ◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT/2000』
Windows NT/2000 で NetBackup BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。
- ◆ 『NetBackup DataCenter Media Manager System Administrator's Guide - Windows NT/2000』
NetBackup DataCenter を実行する Windows NT/2000 サーバーでストレージデバイスとストレージメディアを設定し、管理する方法が説明されています。Media Manager は、NetBackup の一部に含まれています。
- ◆ 『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - Windows NT/2000』
NetBackup BusinessServer を実行する Windows NT/2000 サーバーでストレージデバイスとストレージメディアを設定し、管理する方法が説明されています。Media Manager は、NetBackup BusinessServer の一部に含まれています。

システム管理者ガイド - エージェントとオプション

- ◆ 『NetBackup for DB2 on UNIX System Administrator's Guide』
UNIX で NetBackup for DB2 をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。
この製品については、IBM の以下のマニュアルもご利用ください。
『IBM DB2 Universal Database Extended Enterprise Edition for AIX Quick Beginnings for DB2 Extended Enterprise Edition』
『API Ref IBM DB2 Universal Database API Reference Version 5』

『Guide IBM DB2 Universal Database Administration Guide Version 5』

『Cmd Ref IBM DB2 Universal Database Command Reference』

◆ 『NetBackup for DB2 on Windows NT System Administrator's Guide』

Windows NT で NetBackup for DB2 をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

この製品については、IBM の以下のマニュアルもご利用ください。

『IBM DB2 Universal Database Extended Enterprise Edition for AIX Quick Beginnings for DB2 Extended Enterprise Edition』

『API Ref IBM DB2 Universal Database API Reference Version 5』

『Guide IBM DB2 Universal Database Administration Guide Version 5』

『Cmd Ref IBM DB2 Universal Database Command Reference』

◆ 『NetBackup for EMC System Administrator's Guide』

NetBackup for EMC をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

◆ 『NetBackup Encryption System Administrator's Guide』

NetBackup 暗号化ソフトウェアをインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup 暗号化ソフトウェアを使用すると、バックアップおよびアーカイブに対してファイルレベルの暗号化を実行できます。

◆ 『NetBackup FlashBackup System Administrator's Guide』

NetBackup FlashBackup をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。FlashBackup 製品により、raw パーティションのバックアップのパフォーマンスが向上し、個別のファイルをリストアできるようになります。

◆ 『NetBackup for Informix System Administrator's Guide』

NetBackup for Informix をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Informix を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Informix データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Informix Software Incorporated の以下のマニュアルもご利用ください。

『Informix-Online Dynamic Server Backup and Restore Guide』

◆ 『NetBackup for Lotus Notes on Windows NT System Administrator's Guide』

NetBackup for Lotus Notes をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Lotus Notes を使用すると、Lotus Notes のデータベースとトランザクションログのバックアップとリストアを実行できます。

システム管理者ガイド - エージェントとオプション

◆ 『NetBackup for Lotus Notes on UNIX System Administrator's Guide』

NetBackup for Lotus Notes をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Lotus Notes を使用すると、Lotus Notes のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

◆ 『NetBackup for Microsoft Exchange Server System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft Exchange Server を設定し、使用方法が説明されています。NetBackup for Microsoft Exchange Server を使用すると、Microsoft Exchange Server のオンライン バックアップとオンライン リストアを実行できます。

Microsoft Corporation の以下のリソースもご利用ください。

Microsoft Exchange Server のホワイトペーパーと FAQ

(<http://www.microsoft.com/exchange> で「Disaster Recovery」を検索)

『Microsoft Exchange Administrator's Guide』

『Microsoft Exchange Concepts and Planning Guide』

『Microsoft TechNet』

『Microsoft BackOffice Resource Kit』

<http://www.msexchange.org>

◆ 『NetBackup for Microsoft SQL Server System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft SQL Server をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Microsoft SQL Server を使用すると、Microsoft SQL Server のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Microsoft Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Administrator's Companion - Microsoft SQL Server』

◆ 『NetBackup for NCR Teradata System Administrator's Guide』

NetBackup for NCR Teradata をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for NCR Teradata を使用すると、NCR Teradata のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

◆ 『NetBackup for NDMP System Administrator's Guide』

NetBackup for NDMP をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for NDMP を使用すると、NDMP ホストでバックアップを制御できます。

◆ 『NetBackup for Oracle on UNIX System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Oracle を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Administrator's Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

◆ 『NetBackup for Oracle on Windows NT System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft Oracle をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Microsoft Oracle を使用すると、Windows NT/2000 NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Administrator's Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

◆ 『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Extension System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Manager Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

この製品については、VERITAS Software の以下のマニュアルもご利用ください。

『Database Edition for Oracle Administrator's Guide』

『Storage Edition for Oracle Administrator's Guide』

『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Agent for Backups without RMAN System Administrator's Guide』

システム管理者ガイド - エージェントとオプション

- ◆ 『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Agent for Backups without RMAN System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent for Backups Without RMAN を検証する方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Manager Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

この製品については、VERITAS Software の以下のマニュアルもご利用ください。

『Database Edition for Oracle Administrator's Guide』

『Storage Edition for Oracle Administrator's Guide』

『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Extension System Administrator's Guide』

- ◆ 『NetBackup Plus Module for TME 10 System Administrator's Guide』

NetBackup / Plus Module for TME 10 をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup / Plus Module for TME 10 では、標準の NetBackup 管理者用インタフェースではなく、TME (Tivoli Management Environment TM) を使用して NetBackup を管理します。

- ◆ 『NetBackup for SAP on UNIX System Administrator's Guide』

UNIX で NetBackup for SAP をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『BC SAP Database Administration : Oracle』

SAP AG の以下のリソースもご利用ください。

『BC-BRI BACKINT Interface R/3 System, Release 3.0』

- ◆ 『NetBackup for SAP on Windows NT System Administrator's Guide』

Windows NT/2000 で NetBackup for SAP をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『BC SAP Database Administration : Oracle』

SAP AG の以下のリソースもご利用ください。

『BC-BRI BACKINT Interface R/3 System, Release 3.0』

◆ 『NetBackup for SYBASE System Administrator's Guide』

NetBackup for SYBASE をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for SYBASE を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Sybase データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、SYBASE Incorporated の以下のマニュアルもご利用ください。

『SYBASE SQL Server Utility Programs for Unix』

『SYBASE SQL Server Administration Guide』

ユーザーガイド

◆ 『NetBackup User's Guide - Macintosh』

Macintosh クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアントソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

◆ 『NetBackup User's Guide - Microsoft Windows』

Windows 2000、Windows NT、Windows 95、または Windows 98 クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアントソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

◆ 『NetBackup User's Guide NonTarget Version - Novell NetWare』

Novell NetWare サーバーの NetBackup NonTarget ソフトウェアを使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。NonTarget バージョンの NetBackup には、Microsoft Windows のインターフェースが用意されています。このガイドには、NetBackup クライアントソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

◆ 『NetBackup User's Guide Target Version - Novell NetWare』

Novell NetWare サーバーの NetBackup Target ソフトウェアを使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。Target バージョンの NetBackup には、DOS で実行するメニュー形式のインターフェースが用意されています。このガイドには、NetBackup クライアントソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

◆ 『NetBackup BusinessServer User's Guide - OS/2 Warp』

IBM OS/2 Warp クライアントの NetBackup を使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアントソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

◆ 『NetBackup User's Guide - UNIX』

UNIX クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。

デバイス設定ガイド - Media Manager

- ◆ 『NetBackup Media Manager Device Configuration Guide』

UNIX ホストで、NetBackup DataCenter と NetBackup BusinessServer の Media Manager によってサポートされているストレージ デバイスに対して、デバイス ドライバの追加などのシステム レベルの設定を行う方法が説明されています。

トラブルシューティング ガイド

- ◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』

Windows NT/2000 ベースの NetBackup 製品に関するトラブルシューティング情報が掲載されています。

NetBackup BusinessServer とクライアントの アンインストール/再インストール

B

ここでは、NetBackup BusinessServer ソフトウェアのアンインストールと再インストールについて説明します。

BusinessServer のアンインストール方法

注 NetBackup-Java Display Console がインストールされたマシンから NetBackup をアンインストールする場合は、NetBackup をアンインストールすると Console も削除されます。マシン上で Console を継続して使用するには、Console を再インストールする必要があります。

注意 この手順により NetBackup カタログが削除されます。再インストールを行う予定の場合は、この手順を実行する前にカタログをバックアップしてください(次の「BusinessServer のアンインストールおよび再インストール方法」を参照)。

1. [スタート]メニューの[設定]をクリックし、次に[コントロールパネル]をクリックします。
2. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
3. [インストールと削除]プロパティシートから [VERITAS NetBackup] を削除します。

BusinessServer のアンインストールおよび再インストール方法

注 NetBackup-Java Display Console がインストールされたマシンから NetBackup をアンインストールする場合は、NetBackup をアンインストールすると Console も削除されます。マシン上で Console を継続して使用するには、Console を再インストールする必要があります。

注意 この手順により NetBackup カタログが削除されます。アンインストールする前にカタログを必ずバックアップしてください。バックアップしないとカタログは失われます。

NetBackup クライアントのアンインストール方法

1. カタログ バックアップを実行します。
2. [スタート]メニューの[設定]をクリックし、次に[コントロールパネル]をクリックします。
3. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
4. [インストールと削除]プロパティシートから [VERITAS NetBackup] を削除します。
5. NetBackup カタログの最新のバックアップから NetBackup カタログをリカバリします。
カタログをリカバリするための再インストール手順の詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』の「障害回復」の章を参照してください。

NetBackup クライアントのアンインストール方法

注 NetBackup-Java Display Console がインストールされたマシンから NetBackup をアンインストールする場合は、NetBackup をアンインストールすると Console も削除されます。マシン上で Console を継続して使用するには、Console を再インストールする必要があります。

以下のプラットフォーム用の NetBackup クライアント ソフトウェアをアンインストールする手順については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。

- ◆ Windows 95/98、NT/2000
- ◆ Macintosh
- ◆ Novell NetWare
- ◆ OS/2

UNIX NetBackup クライアント ソフトウェアのアンインストール方法

1. ルート ユーザーとしてクライアントにログインします。
2. /usr/opensv ディレクトリを削除します。
/usr/opensv が物理ディレクトリの場合は、以下を実行します。

```
rm -rf /usr/opensv
```


/usr/opensv がリンクの場合は、以下を実行します。

```
cd /usr/opensv
rm -rf *
cd /
rm -f /usr/opensv
```

NetBackup クライアントのアンインストール方法

3. /etc/services ファイルの NetBackup エントリを以下のように削除します。
 - ◆ クライアントの /etc/services ファイルを編集します。
 - ◆ 以下のように指定された行を検索し、それらの行を削除します。

```
# NetBackup services#
.....
# End NetBackup services #

# Media Manager services #
.....
# End Media Manager services #
```
4. /etc/inetd.conf ファイルの NetBackup エントリを削除します。NCR の場合、このファイルは inetd.local と呼ばれます。
 - ◆ クライアントの /etc/inetd.conf ファイルを編集します。
 - ◆ bpcd、vopied、および bpjava-msvc の各行を削除します。
5. 以下のシェル コマンドを実行すると、inetd が更新された inetd.conf (または inetd.local) ファイルを読み取ります。
 - a. 以下のコマンドを入力します。

通常の UNIX クライアントの場合

```
ps -ea | grep inetd
```

MacOS 10、FreeBSD、および Auspex の場合

```
ps -ax | grep inetd
```
 - b. 以下に示すように、kill コマンドを実行します。process ID は、ps コマンドの出力に表示される最初の番号です。

```
kill -1 process ID
```

ps コマンドのオプションは、クライアントのプラットフォームによって異なることがあります。
6. NetBackup の Java グラフィカル インタフェースを実行している Solaris と HP の NetBackup クライアントの場合は、以下を実行して NetBackup Java の状態データを削除します。

```
/bin/rm -rf /.nbjava
```

NetBackup クライアントのアンインストール方法

索引

- A**
- altnames ファイル 54
 - AutoRunI.exe 24
- J**
- Java Display Console 8
 - jbpSA 60
- M**
- Macintosh クライアント
 - インストール 22
 - バックアップ 59
 - リストア 59
 - Media Manager 5
- N**
- nbmail.cmd スクリプト 49
 - NDS (NetWare Directory Services) ファイル 22
 - NetBackup
 - アシスタント 28
 - アップグレード 15
 - インストール 13
 - オプションのインストール 26
 - カタログのバックアップ (カタログバックアップを参照) 45
 - 再インストール 76
 - レギュラーバックアップ (バックアップを参照)
 - レポート 52
 - NetBackup クライアント インタフェースの使い方 55
 - NetBackup によってサポートされているプラットフォーム 4
 - NetBackup の再インストール 76
 - NetBackup の設定のテスト 19
 - NetWare NonTarget クライアント
 - インストール 22
 - バックアップ 58
 - リストア 58
 - NetWare Target クライアント
 - バックアップ 57
 - リストア 57
 - NTFS パーティション 13
- O**
- OS/2 Warp クライアント
 - インストール 23
 - バックアップ 60
 - リストア 60
- R**
- Rockridge フォーマットの CR-ROM 23
- U**
- UNIX クライアント
 - クライアントのユーザー インタフェース (jbpSA) の起動 60
 - バックアップ 61
 - リストア 61
 - ローカル インストール 23
- W**
- Windows Display Console 8
 - Windows クライアント
 - インストール 21
 - バックアップ 55
 - リストア 56
- X**
- xbp 60
- あ**
- アシスタント、NetBackup 28
 - アドミニストレーション クライアント
 - インストール 24

- 概要 8
- 起動 25
 - リモート サーバーのサーバー リストへの追加 24
- アンインストール
 - NetBackup クライアント 76
 - NetBackup サーバー 75
- い
 - インストール
 - Macintosh クライアント 22
 - NetBackup のオプション 26
 - NetWare NonTarget クライアント 22
 - OS/2 Warp クライアント 23
 - UNIX クライアント
 - CD-ROM からのローカルに 23
 - Windows クライアント 21
 - アドミニストレーション クライアント 24
 - サーバー
 - アップグレード 15
 - 手順 13
 - 要件 13
 - 再インストール手順 76
 - インストール要件 13
 - インタフェース
 - 管理
 - NT/2 17
 - 紹介 7
- う
 - ウィザード
 - NetBackup カタログ バックアップ 45
 - 概要 7
 - 初期設定 18
 - デバイスの設定 29
 - トラブルシューティング 65
 - バックアップ ポリシーの設定 46
- お
 - オプション製品 9
- か
 - [書き込み済みメディア] レポート 53
 - カタログ バックアップ
 - ウィザード 45
 - ウィザードからの設定 19
 - 概要 3
 - スケジュール 43
 - スタンドアロン ドライブの使用 39
 - テープ 42
 - ボリューム 42
 - リストア 45
 - 管理インタフェース
 - NT/2 17
 - 紹介 7
 - 管理者
 - バックアップの通知 49
- き
 - 機能のアドオン 9
- く
 - クライアント
 - アンインストール 76
 - インストール (インストールを参照)
 - 概要 4
 - サポートされているプラットフォーム 4
 - バックアップとリストア 55
 - クライアントのユーザー インタフェース
 - NetWare Nontarget クライアントの起動 58
 - NetWare Target クライアントでの起動 57, 59
 - OS/2 Warp クライアントでの起動 60
 - UNIX クライアントでの起動 60
 - Windows クライアントでの起動 55
 - 紹介 7
 - [クライアント バックアップ] レポート 52
 - グラフィカル ユーザー インタフェース 7
- こ
 - 更新、電子メールによる通知 viii
- さ
 - サーバー
 - アップグレード 15
 - インストール (「インストール」を参照) 13
 - 概要 3
 - 設定 17
- し
 - 初期設定ウィザード 17, 18
 - 自動バックアップ
 - 設定例 46

- す
- スケジュール
 - (バックアップも参照)
 - カタログ バックアップ 43
 - 自動 (レギュラー) バックアップ 46
 - スタンドアロン テープの管理 39
 - スタンドアロン ドライブで手動で開始するバックアップ 41
 - ストレージ デバイス
 - 設定 29
 - ストレージ ユニット
 - 管理 32
 - 概要 5
 - [すべてのログ エントリ] レポート 52
- せ
- 設定
 - NetBackup のカタログ バックアップ 43
 - ウィザード (ウィザードを参照)
 - オペレーティング システムへのデバイスの設定 12
 - カタログ バックアップ 19
 - サーバー 17
 - ストレージ デバイス 29
 - ストレージ デバイスとボリューム 18
- そ
- ソフトウェアの更新、電子メール通知 viii
- っ
- 通知、電子メール
 - ソフトウェアの更新 viii
 - バックアップ 49
- て
- テープ
 - カタログ バックアップ用 39, 42
 - スタンドアロン ドライブ 42
 - ロボティック 41
 - テープ (ボリュームを参照)
 - テープとボリュームの管理
 - スタンドアロン ドライブを使用する場合 39
 - データのバックアップの作成 19
 - データベース エージェント 9
 - デバイス
 - NetBackup の設定 29
 - デバイスの設定
 - オペレーティング システムへの設定 12
 - デバイスの設定ウィザード 5, 29
 - デバイス モニタ 5, 34
 - 電子メール通知
 - 製品の更新 viii
 - バックアップ 49
- と
- トラブルシューティング
 - ウィザード 65
 - 手順 64
- は
- バックアップ
 - Macintosh クライアント 59
 - NetBackup のカタログ、概要 3
 - NetWare NonTarget クライアント 58
 - NetWare Target クライアント 57
 - OS/2 Warp クライアント 60
 - UNIX クライアント 61
 - Windows クライアント 55
 - (カタログ バックアップも参照)
 - ウィザードからの作成 19
 - ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成 46
 - カタログ バックアップのスケジュール 43
 - スタンドアロン ドライブの使用 39
 - 電子メール通知 49
 - バックアップ ポリシー (レギュラーバックアップ用)、概要 2
 - バックアップ ステータス レポート 52
 - [バックアップに関する問題] レポート 52
 - [バックアップのステータス] レポート 52
 - バックアップ ポリシーの作成ウィザード 46
- ふ
- 複数のデータ ストリーム
 - 概要 6
- へ
- 別売りのオプション 9
 - 別のクライアントへのリストア 54
- ほ
- ボリューム
 - カタログ バックアップ 42
 - スタンドアロン ドライブ 42

-
- 定義 5
ロボティック 41
ボリュームの設定ウィザード 5
ポリシー、バックアップ (バックアップも参照) 19, 46
- ま
マルチプレキシング 6
- め
メール通知 49
メディア サーバー 4
[メディア上のイメージ]レポート 52
[メディアとデバイス管理]ユーティリティ 5, 31
[メディアのサマリ]レポート 53
[メディアの内容]レポート 52
メディア マルチプレキシング
 概要 6
[メディア リスト]レポート 52
[メディア ログ]レポート 53
- ゆ
ユーザー インタフェース、紹介 7
- り
リストア
 Macintosh クライアント 59
 NetWare NonTarget クライアント 58
 NetWare Target クライアント 57
 OS/2 Warp クライアント 60
 UNIX クライアント 61
 Windows クライアント 56
 カタログ バックアップ 45
 別のクライアント 54
リモート管理 8, 24
- れ
レギュラー バックアップ、概要 (バックアップも参照) 2
[レポート]ユーティリティ 52
- ろ
ロボティック テープ 41